

14. 21-880



1200501163861

21

880

福井縣水產要覽

同縣水產會編

昭和十二年版



始



14.2
880

昭和十二年版

福井縣水產要覽

福井縣水產會

14.1
8802

目次

第一章	漁業	一
第二章	水產養殖業	二
第三章	水產製造業	六
第四章	水產試驗場	六
第五章	福井縣立小濱水產學校	六
第六章	水產青年學校	七
第七章	水產會	七
第八章	漁業組合	七
第九章	漁業取締規則	一三
第十章	定置漁業權數調	一五
第十一章	許可漁業調	一六
第十二章	漁市場取締規則	一六



1.41
088



第一章 漁業

第一節 概説

本縣ハ日本海岸ノ中央ニ位シ臨海七郡海岸線ノ延長七十七里ニシテ沿海ハ寒暖兩流ノ混和宜シキヲ以テ冷温兩性ノ水族ニ富シ尙地勢上河川、内灣、外海ニ於ケル各種各様ノ漁業ヲ營ムニ適シ對岸ニハ北鮮及濰海州ノ好漁場ヲ控ヘ背後亦京阪神ノ消費大都市ニ近接スルヲ以テ日本海ニ於ケル漁業開發ノ策源地トシテ好適地位ヲ占ム。

越前沿海ハ概シテ山嶽屹立シテ海ニ迫リ百尋線界接岸シ沿岸屈曲少ナク漁港ニ恵マレザレドモ敦賀、三國ノ兩港ハ機船漁業ノ根據地トシテ嶺南小濱港ト共ニ縣下ニ於ケル三大漁港ニシテ殊ニ敦賀三國ノ兩港ヲ根據トスル漁船ハ本縣漁船中大型ニ屬スルモノ多ク出漁ノ漁場廣汎ニ亘ル。若狹沿海ハ海岸平坦ニシテ百尋線遠ク距岸十數哩ニ及ビ沿岸屈曲多ク到ルトコロ漁船ノ碇繫便ニシテ古クヨリ内灣的漁業發達シ小型漁船ニ依ル各種漁業盛ニナリ、本縣沿岸漁業ノ根幹ヲ爲スハ定

置漁業ト小型動力船ニ依ル各種運用漁業トニシテ定置漁業ハ若狭沿岸ニ多ク鱒、鯖、鰯、鮭、柔魚等ヲ主要漁獲物トシ殊ニ近年夏大謀網ノ成績良ク鯖ノ漁獲ヲ著シク増加セリ。

運用漁業ニ在リテハ機船底曳網、延繩、一本釣、流網、巾着網等ニシテ之ニ使用スル漁船ハ機船底曳網漁船ノ一部及巾着網漁船ヲ除キテハ一般ニ小型ニシテ本縣動力機付漁船ノ八割ハ一〇噸以下ノ小型漁船ナリ。

遠洋漁業ニ關シテハ從來余リ見ルベキモノナカリシモ多年縣ノ勸奨スルトコロニシテ最近而口ヲ一新シ、昭和十一年小濱町ニ銅製百噸ノ遠洋漁船西津丸ノ出現ヲ見タルヲ始メトシ、三國及敦賀港ヲ根據トシテ沿海州或ハ大和堆ノ隱岐列島沖合方面ニ出漁スルモノ十數隻ニ達シ今後發展ノ余地益々大ナリ。

第二節 沿海漁業

一、鯖漁業

鯖ハ本縣漁獲物中ノ首位ヲ占メ、本漁業ノ消長ハ漁村經濟ノ向背ヲ決スル重要漁業ニシテ、延

繩、一本釣、流網、巾着網、大謀網等ノ漁具ヲ以テ漁獲ス、延繩、一本釣ハ縣下沿海到ルトコロニ行ハレ、漁期ハ十二月ヨリ七月ニ亘リ、之ニ使用スル漁船ハ五噸級ノ動力船多シ、流網ハ四月下旬ヨリ五月下旬頃迄ノ期間、越前沿海ニ盛ニシテ、巾着網ハ若狭灣ニ於テ春秋ノ候沿岸ニ洄游スル鯖群ヲ旋キテ漁獲シ、近時漁具ノ規模大トナリ、一網十數萬尾ヲ漁獲スル事アリ、漁期ハ春季ヲ主トシ二月頃ヨリ待機シ、六月下旬ニ終リ、秋季ハ漁況ニヨリ出漁ス、尙大和堆發見ノ翌大正十四年以降、指導船福井丸ヲ以テ繼續試驗中ノ同堆附近ヲ漁場トスル母船式鯖延繩漁業ハ最近試驗ノ結果事業トシテ成立確實ナルヲ認メラルルニ至リ、昭和十年西津漁船第二金比羅丸ハ民間船トシテハ日本海沿海諸府縣漁船ニ率先シテ出漁シ、翌昭和十一年ニハ三國、敦賀及小濱ヨリ各一隻ノ大和堆出漁船ヲ見ルニ至リ漸ク大和堆開拓ノ曙光ヲ認メ將來ノ發展ヲ期待スルトコロ大ナリ。

二、鯛漁業

鯛漁業ニ次グ重要漁業ニシテ、縣下漁村ヲ通ジ本漁業ヲ營ムモノ多ク延繩、一本釣、機船底曳

網ヲ主トス、延繩一本釣漁業ハ古クヨリ發達シ、餌料ノ研究ト相俟ツテ漁獲ヲ増スニ至リタレドモ、機船底曳網ノ勃興ニ伴ヒ衰頽ノ傾向ニアリ、機船底曳網ハ現在縣下ヲ通ジ總數百五十余隻ニ及ビ三國、敦賀、小濱ヲ根據地トシテ盛ニ出漁ス。

三、鰻漁業

本漁業ハ從來流網ヲ以テ沖合ニ於テ大羽鰻ノ漁獲ヲ主トシ一時盛ナリシモ、近年洄游減退シ不振ニシテ現在操業ヲ見ルハ三月下旬ヨリ五月上旬ニ丹生郡、坂井郡ノ一部ニ於テ行ハル、ニ過ギザル状態ニシテ、之ニ代リテ産額ヲ著シク増スニ至リタルハ定置漁業ニ依ル中羽鰻ナリ、此外鰻漁業トシテ二艘廻鰻巾着網及大飯郡、敦賀郡下ニ地曳網アリテ中羽鰻小鰻ノ漁獲少ナカラズ。

四、鰺漁業

鰺ハ夏冬二季縣下沿岸ニ來游ス、夏季ハ五月中旬頃ヨリ九月ニ及ビ南部漁場ニ漁獲早く、冬期ハ十一月頃北部漁場ヨリ漁期ニ入り翌年一月ニ終漁ス、從來冬大謀網ニテ多獲セラレタルモ近

年冬鰺ノ漁況不振トナリ夏大謀網盛トナレリ、縣下沿岸ヲ通ジ夏大謀網二十數ヶ所定設セラレ夏鰺ト共ニ鰺ノ漁獲ヲ増加シ何レモ好成绩ヲ納ム、定置漁業ニ依ル外冬季鰺延繩漁業ヲ營ムモノアレドモ從漁船余リ多カラズ。

尙昭和十一年ヨリ三國港沖合二十哩玄達瀬ニ於テ秋季ヨリ冬期ニ亘リ鰺飼付漁業創始セラレタルニ豫想外ノ好成绩ヲ納メ本漁業ノ將來ハ一般ニ注視ノ的トナレリ。

五、鯖漁業

近年鯖ノ産額著シク向上シ漁況良好ナル年ニ於テハ本縣漁獲物中ノ首位ヲ占メントスル状態ニシテ専ラ定置漁業ニヨリ漁獲セラル、本縣沿岸ニ洄游ヲ見ルハ毎年五月以降九月頃迄ニシテ、魚体平均三十貫大ノモノ多ク一回二千尾以上ノ大群ノ入網スル事アリ、然レドモ時恰モ夏季炎熱激シキ候ナルヲ以テ一時ニ大漁アル際ハ處理ニ窮シ漁獲物ノ品質ヲ低下シ魚價ニ影響ヲ及ボスコト甚ダシク入網後ノ處理方法ニ關シテハ今後研究ヲ要スベキ事項尠カラズ。

六、蟹漁業

蟹ハ鰈蟹ト共ニ本縣冬期間ニ於ケル重要水族ニシテ古來越前蟹トシテ其名高ク、機船底曳網ノ重要ナル漁獲物ナリ、殊ニ越前四ヶ浦方面ノ機船底曳網漁業ニ在リテハ蟹ノ漁獲ヲ目的トシテ成立スルト云フモ過言ニアラズ、之ニ使用スル漁船モ總ジテ小型ニシテ十噸級以下ノ漁船多ク一般ノ機船底曳網トハ趣ヲ異ニス。

近年蟹ノ産額遞減ノ傾向アリテ業者間ニ於テモ之ガ對策ニ關心ヲ有スルモノ多ク、適當ナル蕃殖保護ノ方策ヲ講ズルノ要ヲ認メラレ之ガ基礎資料ヲ得ンガ爲メ生態調査ヲ進メツ、アリ。

七、鰈漁業

鰈ハ蟹ト同ジク冬季ノ重要漁獲物ニシテ主トシテ機船底曳網ニ依リ漁獲セラレ越前若狹沖合ヲ漁場トシ一部ハ夙ニ令名アル若狹鰈ノ原料トナルモノナリ。

八、鯉漁業

縣下沿海各地ニ行ハレ底刺網一本釣ヲ主要漁法トシ、鯖巾着網ニテ混獲セララル、コトアリ、漁期春季ニシテ從來一本釣ハ専ラ夜間操業ナリシモ近年土佐漁船ノ漁法ニ倣ヒ晝間操業ヲ爲スニ

至リ漁獲高ヲ増シ將來發展ノ餘地大ナリ。

九、鱒漁業

冬季越前沿海ニ於テ延繩及機船底曳網ニ依リ漁獲セララル、モ延繩ニ在リテハ餌料並ニ冬季向ノ操業ナルヲ以テ出漁日數ニ制限ヲ受クル事多ク年ニ依リ漁獲ニ變動多シ。

一〇、柔魚漁業

夏季ヨリ秋季ノ候ニ盛ンニシテ沿海各漁村釣漁業ニ依リ從漁スルモノ多ク鮮魚並製品トシテ需要廣シ。

第三節 河川湖沼漁業

本縣ニ於ケル主ナル湖沼ハ三方湖群(三方、水月、久々子、日向)及北潟湖ナリ、三方湖群ハ三方群ノ北西部ニ位置シ三方、水月、日向ノ各湖ハ略南北ニ列ビ久々子湖ハ日向湖ノ東ニ在リ、三方湖ハ周圍五里二十町面積三百七十一町步ニシテ淡水湖ナリ、水月湖ハ周圍六里十二町面積六百十町步湖底ニ硫化水素ヲ含ム有名ナル汽水湖ナリ、久々子湖ハ周圍三里面積百二十四町步ニシテ

浦見川ニヨリ水月湖ニ、早瀬川ニヨリ若狹灣ニ通ズ、日向湖ハ其ノ周圍一里五町面積九十三町歩ナレドモ最深部ハ三八米ニ達シ四湖中最モ深ク湖底ニ硫化水素ヲ存スルコト水月湖ト同様ニシテ日向水道ニヨリ若狹灣ニ通ジ、昭和九年四月嵯峨隧道ノ開鑿ニヨリ水月湖ト連絡ス、鹹水湖ナレドモ隧道開通後鹹度ヲ減ゼリ、昭和七年以降各水道ノ浚渫擴張工事相次ギ從來ヨリ著シク海面ノ影響ヲ受クルニ至レリ。

湖岸ニ鳥濱、海山、氣山、早瀬、南西鄉村、日向ノ六漁業組合アリテ専用漁業權設定セラル尙六漁業組合ヲ以テ湖面漁業聯合會ヲ組織ス、巾着網、刺網、延繩、四手網、投網、柴漬、魷等ノ漁業盛ニシテ、鮎、鱒、鰻、鯉、小蝦其他ノ漁獲多ク年額五萬圓ヲ算ス、北瀉湖ハ本縣ノ北端ニシテ石川縣境ニ位シ大聖寺川ニヨリ海ニ通ズ、周圍三里二十町面積二百七十八町歩、鰻、鮎、鯉、公魚、鱒其他棲息シ鰻筒、延繩、四ツ手網及鯉、鮎、蝦等ノ漬漁業行ハレ年額一萬圓ヲ超ユル状態ナリ。

本縣ニ於ケル河川漁業ハ主トシテ九頭龍、足羽、日野、筈ノ川、南川、北川ノ諸川ニ行ハレ鮭

鱒、鮎、鹹、鰻等ヲ主ナル漁獲物トス。

一、鯉、鮎漁業

三方湖群ノ水月湖ニ於ケル巾着網漁業ハ大正六年創始以來最多一萬二千圓最少一千圓ノ年産額ヲ示シ同湖ニ於ケル重要漁業ナリシガ昭和九年夏季水質異變ノ爲メ最近不振ナリ、其他刺網地曳網等ニヨル漁獲尠カラズ昭和十一年冬季ニ於ケル曳網ノ水揚ハ二萬貫ニ及ベリ、北瀉湖ニ於テハ地曳網、漬、底釜等ヲ使用シ同湖ニ於ケル重要漁業ナリ。

二、鰻漁業

三方湖及北瀉湖ハ主産地ニシテ兩湖共主トシテ延繩、筒ニ依リ漁獲シ鯉、鮎漁業ニ次グ重要漁業ナレドモ近年産額減少ノ傾向ニアルヲ以テ昭和六年以來毎年水産試験場ニ於テハ種苗百貫以上ヲ移植シ尙縣ニ於テモ地元漁業組合ノ移植ニ對シ補助ノ途ヲ講ジ之ガ蕃殖ヲ助長シツ、アリ。

三、公魚漁業

三方湖ニ於テ四ツ網、北瀉湖ニ在リテハ、曳網、刺網、四ツ手網ニ依リ漁獲セラル、湖面生産

ノ向上ヲ計ラムガ爲メ昭和八年以降水産試験場ニ於テ霞ヶ浦産種卵三百六十萬粒ヲ北瀉湖ニ繼續移植シタルニ最近同湖ニ於ケル公魚ノ蕃殖ハ夥シキ効果ヲ齎ラシ著シク生産ヲ増加セリ。

四、鮎漁業

鮎ハ本縣河川魚類中首位ニアルノミナラズ、縣下水産物中樞要ナル位置ヲ占メ年産額十數萬圓ヲ下ラズ、由來本縣ハ山嶽多ク九頭龍川、足羽川、日野川、北川、南川等縱横ニ間流シ鮎ノ遡上成育ニ好適ナリ、就中九頭龍川産ノモノ聲價高シ、漁法ハ十數種ノ多キニ及ブモ一本釣、威繩、コロ／＼釣、投網、筌等ヲ主ナルモノトス、近時諸工業ノ勃興ニ伴ヒ河川ニ堰堤ヲ設ケ鮎ノ蕃殖ニ障害尠カラザルヲ以テ河川漁業組合聯合會ニ於テ毎年二千萬粒ノ人工孵化放流及十萬尾ヲ下ラザル仔鮎ノ放流ヲ繼續シ縣亦之ニ助成シ河川漁業ノ王座ヲ占ムル鮎産額ノ維持ニ努メツ、アリ。

五、鮭、鱒漁業

主トシテ九頭龍川水系及南川、北川ニ於テ行ハレ、地曳網、流網、張網、投網ヲ使用ス、縣ニ於テハ從來之ガ蕃殖ヲ計ラムガ爲メ南條郡北柚山村牧谷ニ人工孵化場ヲ設ケ毎年五十萬粒ノ鮭人工孵化放流ヲ施行シ來リタルモ大正十五年度ニ於テハ更ニ其規模ヲ擴大シ大野郡富田村ニ土布子孵化場ヲ新設シ爾來毎年繼續シテ二百萬尾以上ノ稚魚ヲ放流シ之ガ蕃殖ヲ計リツ、アリ

第二章 水産養殖業

第一節 概 說

本縣ニ於ケル沿海淺海面ニ於テハ、うに、あわび、なまこ、わかめ、いわのり等ノ有用水族分布シ淺海増殖場トシテ好適ノ海面廣汎ニ互リ之ガ開發ハ漁村經濟更生上最モ考慮スベキ事項ナリトス、輓近漁村ニ於テモうに、なまこ等ノ投石、いわのり磯掃除及コンクリート築設ニヨリ其効果ヲ擧ゲツ、アリテ、縣及郡水産會之ヲ助成シ、水産試験場ニ於テモうに、あわび、なまこニ付模範増殖場ヲ設置シ目下基礎的研究ニ着手シツ、アルヲ以テ淺海増殖ノ普及ハ顯著ナキモノアルベシ。

陸地水面ニアリテハ三方、北瀉湖ヲ始メ九頭龍川、南川、北川、耳川、笹ノ川等魚族棲息ニ適スル水面多ク、是等水面ノ増殖施設ヲ講ズルハ農山漁村經濟更生上急務トスルトコロニシテ、水産試験場ニ於テハ、鮭、鱒ノ孵化放流、琵琶湖小鮎ノ移殖、鯉苗ノ養成配付ヲ實施シ來リ縣ニ於テハ鰻兒及小鮎ニ對シ助成金ヲ交付シ愈々其實績ヲ擧ゲツ、アリ、一面河川漁業組合聯合會ニ於テハ移殖用鮎苗ノ自給自足ヲ計ル目的ヲ以テ海産鮎ノ蓄養ヲ計劃セル等陸地水面ノ利用モ漸ク活況ヲ呈スルノ域ニ進ミツ、アリ。

第二節 内水面利用

一、養鯉業

鯉ノ養殖ハ丹生、今立、大野ノ三郡ヲ中心トシ近年著シク勃興ヲ來タシ縣内ヲ通ジ養殖場數百十個所總面積一萬八千余坪ニ及ビ之ガ年産額ハ一萬數千圓ノ見込ナリ、水産試験場ニ於テハ年々優良系鯉苗十萬尾内外ヲ養成シ業者ニ配給スルト共ニ養漁法ヲ指導獎勵シツ、アリ。

二、鹹(うぐひ)養殖業

九頭龍川水系ニ棲息スル鹹ヲ春季採捕シ之ヲ秋季迄養殖シ冬季之ヲ販賣スル本業ハ十余年前ヨリ南條及大野郡民間ニ於テ從業セラレ爾來順調ナル發達ヲ透ゲ石川、長野、滋賀方面へ移出シツ、アリ。

三、鰻養殖業

縣下ニ於ケル鰻養殖ノ民間經營ハ昭和十年ノ創始ニ係リ現在敦賀及今立郡ニ各一ヶ所アリ、前者ニ於テハ既ニ生産物ヲ縣外ニ販賣シ好成績ヲ納メツ、アリ、水産試験場ニ於テハ生産増加ヲ計ル爲メ優良種苗ノ養成ニ着手セリ

四、養鱒業

國庫ノ補助ニ依リ昭和三年ヨリ水産試験場ニ於テ陸封性鱒類(米國産河鱒及虹鱒)ノ池中養殖ヲ研究シ其準據スルトコロヲ示シタルニ民間ニ於テ之ニ倣ヒ企圖スルモノ大野郡三ヶ所、三方郡一ヶ所アリ、昭和十年ニハ生産物ヲ縣外ニ移出セラル、ニ至リ今後發展セムトスル機運ニアリ

第三節 湖沼利用

一、三方湖ノ利用

縣内二大湖ノ一タル三方湖ハ面積一千百五町歩アリ、其主ナル漁獲物ハふな、うなぎ、こひ、ぼら等ニシテ同湖ニハ百三十名余ノ漁業者アリ、年平均三萬五千貫五萬圓内外ノ漁獲高ヲ占ム同湖ノ利用増殖ハ地元五漁業組合又ハ湖面漁業組合聯合會ニ依リ少數ノ鰻兒ヲ購入移殖シ昭和六年ヨリ地元ト協同シ水産試験場費ヲ以テ鰻、ふな、こひ、わかさぎ等ヲ移殖シ其効果ヲ認めラル、ニ至レリ。

二、北潟湖

三方湖ニ次グ北潟湖ハ面積二百七十八町歩、漁業者百名、主ナル漁獲物ハふな、うなぎ、こひわかさぎ等ニシテ年平均漁獲高七千貫一萬圓ヲ占ム。同湖ノ漁獲高ハ亂獲等ノ原因ニ依リ年々減少ノ傾向ニアリテ漁村ノ疲弊亦著シキモノアルヲ以テ、地元漁業組合ヲ督勵シ場費ヲ以テ優良魚族ヲ移殖スルト共ニ一面漁期、漁場、漁具、漁獲物ニ對シ制限禁示ノ製度ヲ設クル等積極的ニ同湖ノ生産力増加ヲ計リツ、アリ

第四節 河川利用

九頭龍川水系(日野川、足羽川、天王川、眞名川ヲ含ム)筈ノ川、耳川、南川、北川ハ縣下ノ主要河川ニシテ漁業者數(遊漁者ヲ含ム)五千名ヲ數ヘ漁業組合ノ設立數二十ヶ組合ニ及ビ之等ヲ統轄スル河川漁業組合聯合會事務所ヲ縣廳内ニ置ケリ、一ヶ年ノ漁獲高平均二十萬圓ニシテ鮎其五割ヲ占めます、うぐひ、さけ等之ニ次グ。

縣ニ於テハ河川ノ利用増殖ヲ獎勵スル爲メ漁業組合ノ鮎移殖ニ對シ補助金ヲ交付シツ、アリ、昭和十一年ノ如キ縣下七漁業組合ニ於テ琵琶湖産小鮎二十三萬五千尾ヲ移殖シタル外聯合會事業トシテ鮎卵一十萬粒ヲ九頭龍川ヘ孵化放流セリ。

尙水産試験場ニ於テハさけ及ますノ蕃殖ヲ計ル爲メ國庫ノ補助ヲ受ケ昭和元年度大野郡富田村ニ收容能力千二百八十萬粒ノ人工孵化場ヲ施設シ爾來年々繼續シ鮎卵二百萬粒内外鮎卵五十萬粒内外ヲ孵化放流シ遡河性鱒鮎ノ生産増加ヲ圖ル一面河川上流筋ヘハ定着性鱒類ヲ放流シ之ガ蕃殖ヲ圖ル等官民協力シ河川ノ利用増殖ヲ期シツ、アリ。

第五節 淺海利用

一六

一、海膽(うに)増殖

全縣下ニ分布スルモ主産地ハ南條郡以北ニシテ殊ニ越前岬以北ニ饒産シ産額ハ三千余貫五萬余圓ニ達ス、極メテ蕃殖力旺盛ナル生物ニシテ投石ヲナシテ其棲息面ノ擴大ヲ計レバ増殖容易ナリ、各漁業組合及ビ水産會等ニ於テ昭和七、八年度農業土木事業及昭和九、十年度災害應急事業等ニヨリテ投石事業ヲナセルモノ坂井郡雄島村外六ヶ所ニ達ス、又各漁業組合ニ於テハ義務投石ト稱シ採取者二日役若クハ個數ヲ定メ投石ヲナストコロ多シ、水産試験場ニ於テハ昭和十年度ヨリ坂井郡雄島村梶浦及ビ丹生郡四ヶ浦村梅浦ニ模範増殖場ヲ設置シ増殖基礎試験及生態調査實施中ナリ。

二、鮑増殖

全縣下ノ岩礁地帯ニ分布ヲ見ル産額一萬余貫三萬余圓ナリ、各漁業組合及水産會ニ於テ昭和七八、九年農業土木事業及ビ昭和九、十年度災害應急事業ニヨリテ投石ニヨル棲息面ノ擴大ヲ行

ヒン所坂井郡雄島村外五ヶ所ナリ、其他消極的増殖法トシテ、禁漁、輪採法等ヲ施行スル所アリ、水産試験場ニ於テハ昭和八年丹生郡下岬村居倉漁業組合ト協定シ保護區域ヲ設ケテ投石ヲ爲シ、更ニ昭和十一年同地ニ模範増殖場ヲ設置シ、母貝ノ放養、稚貝ノ移殖及ビ投石ヲナシテ縣下ノ稚鮑配給所タラシメントスルト共ニ増殖基礎試験實施中ナリ。

三、海鼠増殖

全縣下ニ分布ヲ見産額三萬余貫七千余圓アリ、農業土木事業及ビ災害應急事業ニヨリ増殖施設ヲナセルモノ遠敷郡西津漁業協同組合外四ヶ所ナリ。

四、岩海苔増殖

全縣下ニ産シ産額三千余貫五千余圓ナリ、農業土木及ビ災害應急事業ニヨリ、コンクリート面築設セルハ五ヶ所ニシテ水産試験場ニ於テハ昭和六年以後各漁業組合ト共同施行シ現在迄二十九ヶ所面積四八〇坪ノコンクリート面ヲ築設セリ。

五、牡蠣増殖

一七

嶺南地方ニ於テハ風浪ノ虞渺ナキ灣入屈曲多ク、水温ノ高極著シク高カラズ從テ夏期ノ斃死現象無ク、且ツ消費地ニ近接セル等有利ノ點多シ、本縣養蠶ハ垂下養蠶試驗ヲ昭和五年佛谷漁業組合ニ委托セルニ始マリ、現在同地ニ筏八台、剝身量十石ヲ産シ又日向湖ニ於テモ開始セリ。

第三章 水産製造業

第一節 概 說

本縣水産製造額ハ食料品總額九十一萬八千九百貫、價額八十萬九千四百圓搾粕、肥料並魚粕五萬八千五百貫價額一萬九千圓、之ニ水産罐詰十三萬圓ヲ合スレバ總額九十五萬八千七百圓ニ上リ、近ク京阪、名古屋ノ大市場ヲ控ヘ是等製造高ハ逐年増加ノ途ヲ辿リツ、アリト雖モ其業態ヨリ見ルトキ概シテ規模ノ大ナルモノ少ナク、製造方法幼稚ナルモノアリテ未ダ漁獲物ノ處理利用全カラザルモノアリ、然ルニ本縣沿海ハ鱈、鯖、鮪等好漁場多ク是等魚族一時ニ多量ノ漁獲アルトキハ魚價爲ニ低落シ從テ價格ノ高低甚ダシク漁業經濟ヲ脅スコト大ナルヲ以テ之ガ有利ナル處

理利用ノ途ヲ講シ其價値ヲ高メ以テ當業者收利ノ増大ヲ圖ルハ最モ緊要ナルコトナリトス、今其概況ニ付テ見ルニ本縣水産製造物ヲ大別スレバ、鱈、鯖、鮪等ノ鹽藏品最モ多ク四十四萬六千三百貫價額二十五萬一千四百圓ニシテ製造總額ノ二〇%ヲ占メ、煉製品タル竹輪、蒲鉾類十一萬六千貫價額十六萬三千八百圓之ニ次ギ煮干品十一萬六千貫價額十二萬八千圓素干品五萬三千貫價額十萬三千圓鹽干品十六萬六千貫價額九萬六千圓其他節類一萬四千貫價額一萬七千圓等其主ナルモノナリ。

本縣ニ於ケル水産製造業ハ近時海陸交通ノ利便開發ト共ニ益々重要性ヲ加ヘ將來調味外觀ヲ主トシ新時代ニ適合セル製造ヲ實施スルコト肝要ナリ。

第二節 主要生産品

一、節 類

年産額一萬五千貫價額一萬五千圓ニシテ三方郡最モ多ク大飯、丹生郡之ニ次グ、鱈節ヲ主トシ年産一萬一千貫價額一萬一千圓節類ノ大部分ヲ占メ、中羽鱈、潤日鱈ヲ原料トシ、中羽鱈節ハ

二、三月、潤目鱈節ハ五、六月ヲ製造期トス、三方郡早瀬ニハ削節ノ製造行ハレ石川縣、滋賀縣等ニ搬出ス。

鯖節ハ六、七月ヲ製造期トシ遠敷、三方兩郡ニ多ク其他めぢか節、鯖節等ノ製造行ハル、京阪名古屋等ノ市場ニ搬出セララル。

二、素乾品

素乾品ハ年産五萬三千貫價額十萬三千圓、鰯、田作、鱈、干鰯等主ナルモノニシテ其中鰯ハ最モ重要ナルモノニシテ二萬七千貫價額七萬圓丹生郡最モ多ク遠敷、大飯郡之ニ次グ。

大飯郡ニ於テハ四月乃至七月けんさきいかヲ以テ磨鰯ノ製造行ハレ、九月、十月二番鰯並あをりいかニテ袋鰯ノ製造行ハル。

其他丹生郡ニテハ開鱈ノ製造行ハル、「ゴマメ」ハ若狭、小濱灣内ニテ漁獲セララル、小鱈ヲ原料トシ遠敷郡最モ多ク二千七百貫三千六百圓程度ナリ、海藻類トシテハ乾和布ノ製造行ハレ一萬二千貫二萬圓、南條郡、敦賀郡、三方郡等ニ製造セラレ、小濱町、高濱町等ニ於テハ和布ヲ加

工シ味付若布、粉若布等土産品用トシテ製造セララル。

三、煮乾品

煮乾品ハ年産十一萬六千貫價額十二萬八千圓ニシテ鱈、玉筋魚多ク其他海參、干蝦等主ナルモノニシテ煮干鱈ハ遠敷郡、小濱灣内及三方郡沿岸ノ定置漁具ニヨル小鱈ヲ原料トシ其設備ハ角釜ヲ用ユルモノ多シ、海參製造ハ敦賀郡並遠敷郡和田村等ニ於テ製造セラレ支那輸出品タリ。

四、鹽藏品

鹽藏品ハ本縣水産製品中最モ重要ナルモノニシテ鱈、鯖、鰯等ノ鹽物多ク、鱈ハ大羽鱈ヲ原料トセル糠漬鱈ヲ主トシ三月ヨリ五月ヲ製造期トシ遠敷、大飯ノ兩郡最モ多ク鱈落網其他ノ定置漁具漁獲物ヲ用ユ、縣内鱈漁獲高ノ七%ハ之ニ製造セララル、鹽鯖ハ京阪地方ニ於ケル押すし用トシテ嬉バレ二月乃至五月中巾着網及延繩ノ漁獲物ニテ背開後一五%程度ノ鹽漬物トナス。

五、鹽乾品

鹽乾品ハ年産十六萬六千貫價額九萬六千圓ニシテ鱈鹽干品最モ多ク年産八萬貫三萬八千圓ニシ

テ眞鱈、中羽鱈、潤月鱈ヲ原料トシ鯉刺製品ニシテ京阪、名古屋ニ販賣セラル、之ガ製造ハ大飯郡最モ盛ニシテ丹生郡、三方郡之ニ次グ、又若狹近海鰈(主トシテまつばがれい)ヲ原料トスル鹽乾鰈ハ古來若狹鰈トシテ有名ニシテ、高濱町、小濱町、敦賀市等ニテ製造セラル、燒鯖ハ古來越前濱燒鯖トシテ有名ナリ。

六、煉製品

煉製品ハ鹽藏品ニ次グ重要ナルモノニシテ遠敷郡小濱町並敦賀市、坂井郡三國町等ハ底曳網漁船ノ根據地タル關係上之ガ原料タル小鯛、鰈、鱈、鱒等底魚物ノ陸揚多ク從テ竹輪、蒲鉾ノ製造モ亦盛ナリ、然レドモ近時縣内漁獲物ハ値段ノ關係上鮮魚ニテ消費セラル、モノ多ク煉製品タル原料不足セルヲ以テ兵庫縣下關ヨリ購入シテ製造シツ、アル現況ナリ、年産十一萬六千貫十六萬三千圓ニシテ福井市最モ多ク遠敷郡、敦賀郡之ニ次ギ之等製品ハ殆ンド縣内ニ於テ消費セラル、近時其品質稍改善セラレタルトコロアリト雖モ兵庫、大阪地方ノ優良製品ノ縣内移入多キヲ以テ尙將來之ガ製造設備ヲ改良シ品質ノ改良ヲ圖ルト共ニ其生産増加ヲ圖ルコト肝要ナリ。

七、水産物罐詰

水産物罐詰ハ年産十三萬圓内外ニシテ工場トシテハ丹生郡四ヶ浦村二、城崎村二、坂井郡三國町二、計六工場アリテ、若狹近海ニハ製造原料タル鱈、鯖、鮪等極メテ豊富ニシテ將來益々發展性ヲ有スルモ現在ハ殆ンド内地向味付製品ノミニシテ輸取向製品トシテハ僅ニすわい蟹罐詰ノ製造ヲ見ルニ過ギズ、從ツテ將來輸取向製品ノ研究並販路ノ開拓ヲ圖ルコト必要ナリ。

八、水産肥料

魚肥ハ年産五萬貫一萬七千圓程度ニ過ギズシテ其製造モ極メテ少ナク鱈搾粕ヲ主トシ三方、大飯兩郡ニテ製造セラレ他ハ荒粕、干鰯ニシテ之ガ製造設備ハ近時漸ク改良セラレツ、アリ。

九、嗜好品

嗜好品銘產品トシテ越前雲丹、海鼠腸、うるか等ノ醃醬品アリテ雲丹ハ年産五萬圓内外、坂井郡、丹生郡等越前岬以北ヲ主産地トシ品質優良ナルモノアリ、鹽藏生雲丹ヲ煉リタル煉雲丹ハ

古來「越前雲丹」トシテ有名ニシテ其他雲丹製品トシテハ燒雲丹、蒸雲丹、雲丹味淋漬等アリテ
福井市、武生町、三國町等ニテ製造セラル、雲丹ヲ調味料トシテ製造セルモノ仔鯛及仔蝶ノ雲
丹燒アリテ小濱町、高濱町等ノ銘産品タリ。
昆布加工品ハ敦賀市ニ於テ製造セラル、昭和八年敦賀昆布商業組合設立セラレ原料昆布ノ共同
購入、製品ノ検査ヲナシツ、アリ、製品トシテハ刻昆布、とろ昆布、昆布菓子等ナリ、其他
銘産品トシテ九頭龍川産鮎ノ粕漬、うるか等アリ。

第四章 水産試験場

第一節 沿革

大正 九年 水産試験場ノ開設ヲ見、本場ヲ縣廳内ニ置キ四月一日ヨリ事務ヲ開始ス、試験
船二州丸ヲ建造シ、海洋ノ調査及各種漁撈試験調査ニ従事ス、南條郡北柚山村
牧谷ニ鮭人工孵化及溫水性魚族ノ養殖設備ヲ爲ス。

大正十二年 坂井郡雄島村宿ニ三國出張所ヲ建設シ漁撈試験ノ根據地ニ於ケル作業ニ便ス。

大正十三年 遠洋漁業ノ試験指導及對岸漁場ノ調査等ノ目的ヲ以テ新ニ指導船福井丸ヲ建造
ス。

大正十五年 河川ニ於ケル水力電氣事業勃興並漁撈術ノ發達ニ伴ヒ其繁殖ヲ阻害セラル、遡
河魚族ノ増殖ヲ圖ル目的ヲ以テ同年水産増殖獎勵規則ノ發布ヲ見タルニ依リ其
方針ニ基ツキ大野郡富田村土布子ニ鮭鱒人工孵化場ヲ建設ニ着手ス。

昭和 三年 丹生郡殿下村武周湖ニ鱒族ヲ放流ス。

昭和 五年 土布子鮭鱒人工孵化場、武周湖孵化場完成ス。

昭和十一年 通常縣會ニ於テ水産試験場海岸移轉新築豫算通過、新設費四萬二千圓。

昭和十二年 水産試験場ヲ敦賀郡敦賀町ニ移轉スルコトニ決定。(二月十八日)

第二節 設備

本場ハ縣廳内ニアリテ敷地建物ヲ有セザルモ、土布子鮭鱒増殖場、牧谷養魚場、武周湖孵化場及

三國出張所ノ設備概要左記ノ如シ

一、土布子鮭鱒増殖場

事業 鮭鱒ノ孵化放流事業、定着性鱒族ノ親魚養成、採卵孵化養成放流及配給。

位置 大野郡富田村土布子

設備 敷地 二千坪

事務室	木造二階建	二〇坪
研究室	同 平家建	二〇坪
天秤室		半坪
小使室	木造平家建	一〇坪
便所		一坪半
冷蔵庫兼調餌室	木造平家建	七坪五合
自動車々庫	同	六坪

職員住宅 同 二五坪

倉庫 同 一五坪

孵化室 同 九六坪

飼育池 コンクリート製一六面 二三坪ノモノ八面
二五坪ノモノ八面

親魚養成池 同 九面 四九坪ノモノ八面
一八坪ノモノ一面

夏越池 一面 二五坪

アットキンス式孵化槽 一間槽 一二八槽

檢卵槽 二間半槽 四槽

用水ハ土布子部落ヨリ浸出スル湧水ト打川ヨリ口徑二尺延長八〇間ノヒニーム管
ニヨリ引用シタルモノヲ充當ス。

二、牧谷養魚場

事務室 三坪
 宿直室 三坪
 物置 三坪二五
 便所 半坪
 孵化室 八坪
 飼育池 一二坪 九坪
 親魚捕獲池 一五坪 一面
 一三坪 一面

四、三國出張所
 事業 指導船ノ根據地ニ於ケル作業、講習、漁撈器具機械ノ保管
 位置 坂井郡雄島村宿
 設備敷地 三三〇坪

事務室 木造二階建 二〇坪
 倉庫 木造平家建 一二坪

五、所屬船

イ、福井丸 (大正十四年五月竣工)

- 一、船種 ケツチ型 鋼製帆船
 - 一、總噸數 六一噸三一
 - 一、重要寸法 長サ六八呎 幅一六呎五五 深七呎五吋
 - 一、補助機關 新潟デイーゼル式M4R式 一〇〇馬力
 - 一、速力 八節
 - 一、建造費 六萬參千圓
 - 一、事業 遠洋漁業試驗指導及日本海海洋觀測
- 備考 無線電信設備中

口、二州丸（昭和四年一月竣工）

- 一、船種 ケツ子型 木造帆船
 - 一、總噸數 一〇噸九
 - 一、重要寸法 長四七呎五 幅九呎六吋 深四呎一吋
 - 一、補助機關 池貝無水式發動機 一六馬力
 - 一、速力 五節
 - 一、建造費 五、五五〇圓
 - 一、事業 沿岸漁業ニ關スル試驗調査及指導
- 備考 主機關二五馬力取換中

第三節 累年經費

年次	經常費	臨時費	總額	備考
大正九年度	二、六三五 <small>四</small>		二、六三五 <small>四</small>	
同 十年度	二三、四二		二三、四二	
同 十一年度	二六、五一九		二六、五一九	
同 十二年度	二四、六八九	六、七四七	三一、四三六	
同 十三年度	二六、四二		二六、四二	
同 十四年度	四〇、三三	七三、〇〇〇	一一三、三三	
同 十五年度	四三、〇一九		四三、〇一九	
昭和二年度	七〇、九一九	一五、〇〇〇	八五、九一九	
同 三年度	六九、九七六	一八、三二〇	八八、二九六	
同 四年度	六三、八一五		六三、八一五	
同 五年度	六二、〇六四		六二、〇六四	
同 六年度	五〇、八三		五〇、八三	
同 七年度	四九、六五八		四九、六五八	

同	八年度	四八、九〇二	二、一八〇	四八、九〇二
同	九年度	五〇、五四九	三、〇三二	五二、七二九
同	十年度	五〇、二八七		五三、三二九

三四


第四節 業務要項 (昭和十二年度)

本場業務ハ(一)遠洋漁業ノ振興(二)沿岸漁業ノ復興(三)淺海並内水面利用(四)水産物ノ加工利用(五)當業者ノ指導啓發ノ五大方針ニ基ツキ之ガ實施ニ當リテハ調査部、漁撈部、養殖部及製造部ノ各部門ニ分擔ス、概要左ノ如シ。

イ、調査部

- 一、淺海利用基本調査
漁村經濟更生ノ一策トシテ専用漁場ノ利用ハ最モ緊急ヲ要スルヲ以テ縣下淺海ノ實情ヲ詳細ニ調査シ(潛水器利用)以テ各漁村ニ適應セル淺海利用ノ基準ヲ求メ之ニ基ツキ計劃ヲ樹テ指導セントス

二、海洋觀測

漁業合理的經營ノ基礎資料ヲ得ントスルモノニシテ福井丸ヲ以テ敦賀、浦鹽線上百五十哩間定期觀測、敦賀大和堆間及敦賀浦鹽間ノ海洋觀測ヲ實施スルモノトス、尙二州丸ヲ


三、定置漁場細密調査

沿岸漁業ノ大宗タル定置漁業ノ改善ヲ爲スタメ漁場ノ深度、底形、底質、潮流、魚群ノ移動等ニツキ精密ナル調査ヲ施行スルモノナリ。

四、漁況連絡調査

漁況ハ漁業ヲ合理的ニ發達セシムル基礎資料トシテ重要ナルヲ以テ縣下樞要漁村ニ通信員ヲ常置シ中央水試及各府縣ト連絡シ日本海ニ於ケル漁況ノ推移ト海況トノ關係ヲ闡明ナラシメントス。

五、鯖、鮪河游調査

鯖及鮪ハ本縣重要魚種ニシテ之ガ漁獲ノ消長ハ縣下漁業者ハ勿論一般水産業者ニ影響スルトコロ甚大ナルモノアルヲ以テ其洄游狀況ニ就キ調査セントス。

四、漁撈部

一、對岸出漁試驗並指導

沿岸漁場ノ休養並機船底曳網漁業ノ打開ヲ目的トシテ昭和六年以來繼續實施シタル結果大型船西津丸ヲ始メ數隻ノ出漁船ヲ見ルニ至リタルヲ以テ一層之ガ指導ヲ完璧ナラシムルト共ニ將來漁場ノ擴大ヲ要スル結果ヲ考慮シ東徑一三三度以東ノ公海ニ於ケル漁場價值ノ調査ヲ施行セントス

二、母船式鯖延繩漁業試驗並指導

既往福井丸試驗ノ結果本縣漁業者ニテ大和堆ニ出漁スルモノ三隻ヲ見ルニ至リタルハ實ニ日本海各府縣中之ガ先鞭ヲツケタルモノニシテ、益々事業ノ重要性ヲ増加セルヲ以テ一層民間船ノ指導ヲ完璧ナラシムルト共ニ從業期間ノ伸長ヲ企テル爲メ沖合新漁場調査ヲ併施

セントス。

三、沿岸漁業試驗並指導

本縣ニ於ケル動力付漁船ノ八割ヲ占ムル沿岸小型漁船經營ノ合理化ヲ計ラムガ爲メ二州丸ヲ使用シ各種釣漁業ノ盛漁期ヲ撰ビテ一ケ年内ニ於ケル有利漁業ノ組ミ合セヲ考究試驗シ以テ多角的沿岸漁業經營ノ實績ヲ納メムトス。

四、遠洋漁業練習生養成

本縣ニ於ケル遠洋漁業ハ漸ク其發達ノ曙光ヲ認メタルヲ以テ之ニ適應スル優良漁夫ノ實地訓練ヲナスヲ目的トシテ各漁村ヨリ優良青年ヲ募集シ福井丸ニ乗船セシメ訓練セントス。

ハ、養殖部

一、淺海利用試驗

沿岸漁場ノ涵養ハ漁村經濟ノ根本問題ナルヲ以テ漁村ニ於ケル地先水面ノ利用如何ハ頗ル重要性ヲ有スルモノナリ故ニ淺海基本調査ト相俟テラに、あわび及なまこニ付模範増殖場

ヲ設置シ其範ヲ示シ各漁村ヲシテ之ニ倣ハシメ漁村經濟更生ニ資セントスルモノナリ。

二、魚苗配付事業

鱒、鯉、鼈養殖ノ普及發達ヲ計ル爲メ、土布子、牧谷兩養殖場ニ於テ養成シタルモノヲ配給シ斯業ノ振興ヲ計ラムトス。

三、湖沼利用試験

北潟湖ハ逐年漁獲ノ漸減ヲ來タシ引イテ漁村ハ疲弊ノ一途ヲ辿リツ、アル現情ナルガ更生ノ方策ハ一ニ同湖ノ合理的經營ニアルヲ以テ、漁業組合ト提携シ三ヶ年計劃ヲ以テ適種魚族ノ放流及漁業取締ヲ徹底セシメ以テ漁村ノ更生ヲ計ラムトス。

四、鮭鱒孵化放流事業

本事業ハ國庫ヨリ獎勵金ノ交付ヲ受ケ遡河性鮭鱒及定着性鱒族ノ孵化放流ヲ繼續實施スルモノニシテ、鮭二百五十萬粒、鱒五十萬粒、定着性鱒五十萬粒合計三百五十萬粒ヲ土布子牧谷及武周湖孵化場ニ收容シ夫々孵化放流セムトス。

五、鱒族親魚養成事業

鱒孵化放流事業ニ伴ヒ國庫ヨリ獎勵金ノ交付ヲ受ケ實施スル事業ニシテ、牧谷、武周湖及土布子養成場ニ於テ飼育養成シタル親魚ヨリ採卵シ孵化放流事業ノ自給自足ヲ計ラムトス

ニ、製造部

一、鱒利用試験

本縣最多漁獲物タル鱒ノ利用ニツキ大衆向食料品並ニ輸出向油漬罐詰等ニツキ研究セントス。

二、鮭利用試験

夏季ニ於ケル鮭ノ大漁ト安價ナルトハ漁村ニトリテ最モ考慮スベキ現象ニシテ之ガ加工法ヲ講究スルハ緊急事ナリトス、依テ價值向上ノ爲メ各種罐詰ニツキ研究セントス。

三、實地指導及講習講話

試験調査ノ結果ハ之ヲ活用シテ水産業ノ改善ニ移スヲ必要トスルヲ以テ、漁撈、養殖及製

造各部門ニ於テ隨時實施セントス。

第五節 經費 (昭和十二年度)

一、經常費

水産試験場費

五三、四五〇圓

俸給

一二、五三三圓

雜給

一五、〇九四圓

場費

八、一四四圓

事業費

一七、四七九圓

内譯

漁業基礎調査費

三、一五八圓

漁業試験費

三、五一二圓

漁業練習生養成費

一五〇圓

鮭鱒増殖費 六、二五六圓
一般増殖費 三、一〇六圓
製造試験費 七九七圓
其他調査試験費 五〇〇圓
修繕費 二〇〇圓

二、臨時費

總額

四九、五〇〇圓

内譯

水産試験場新設費

四二、〇〇〇圓

福井丸無線電信設備費

五、五〇〇圓

二州丸機關入替

二、〇〇〇圓

第五章 福井縣立小濱水産學校

四二

一、沿革概要

明治廿八年時ノ縣知事荒川邦藏氏見ル處アリテ各府縣ニ率先シテ水産教育ヲ起シ同年六月福井縣簡易農學校ノ分校トシテ遠敷郡小濱町外元雲濱村竹原ニ之ヲ設置シ水産科ヲ教授セリ、是レ我が國ニ於ケル中等水産學校トシテノ濫觴ニシテ當時學科ノ課程ニ於テ範ノ採ルベキモノナキノミナラズ生徒ノ募集及生徒教養上ニ於テ幾多ノ不便ヲ忍ビ紆餘曲折ヲ經タルモ其ノ成績ヲ認メラレ逐次ニ内容ヲ充實整備シ明治卅三年ニハ實業學校令並ニ農學校規程ニ據リ獨立シテ修業年限二年ノ福井縣水産學校トナシ明治卅五年四月ニハ文部省令第十六號水産學校規程ニ基キ修業年限三年ノ甲種程度ニ組織ヲ變更シ職員ヲ増聘シ實習船、製造實習場、養魚場等ノ實習設備ヲ整へ福井縣立小濱水産學校ト改稱シ其ノ面目ヲ一新セリ。

同年十一月ニハ徵兵第十三條並ニ文官任用令第三條第三項ニ依リ認定セラレ明治卅七年ニハ改

良漁船ヲ新造シテ近海漁業ノ實習並ニ當業者ノ指導ニ供セリ、同卅九年ニハ現校舍ニ改築ヲ見タリ。

爾後漁業界ノ發展ニ伴ヒ發動機附漁船建造ノ急務迫ルヤ明治四十四年發動機附西洋型漁業實習船ヲ新造シテ業界ニ範ヲ垂ル、ト共ニ遠洋漁業及ビ航海術運用術實習並ニ當業者ノ指導ニ任ジタリ。

爾後設備ヲ擴充シテ生徒並ニ當業者ノ指導誘掖ニ資スル爲施設セル主ナルモノ左ノ如シ。

年 度	施 設 事 項
大正 八年度	雲龍丸新造
同 十三年度	海洋觀測用器具、氣象觀測器、銃器室
同 十五年度	製造實習場擴張、六分儀、蒲鉾製造用設備
昭和 三年度	家庭罐詰卷縮機、チャンピオン運搬機、レコーデングサーモメーター
同 四年度	雪龍丸新造、雲龍丸模型、電氣着火式五馬力發動機、ハンドカンテスタ

四三

同	五年度	罾詰機
同	六年度	日鋼式編鋼機
同	七年度	三杆分度器、蛟龍丸購入、製造實習用ポイラー
同	八年度	エキゾーストボックス、アドリアンシーマー、エヤー瓦斯發生器
同	九年度	飛龍丸新造、飛魚廻網設備
同	十年度	アミノサン定量器

二、歴代校長

就職年月	轉免年月	氏名
初代 校長 明治廿八年六月	明治三十三年六月	青木 恒樹
二代 校長 同 卅三年六月	同 三十九年十一月	小橋 美代藏
三代 校長 同 卅九年十一月	同 四十一年六月	古賀 駿輔
四代 校長 同 四十二年五月	大正六年六月	平野 茂吉
五代 校長 大正六年六月		戸井田 盛藏

同校ハ創立四十年校運年ヲ逐フテ隆盛ニ趣キツ、アルモ環境校地ノ擴張校舍ノ増築等到底不能ナルヲ以テ昭和九年之ガ改築ノ議起リ縣會ノ協賛ヲ經テ約七萬八千圓ヲ投ジテ昭和十年度十一年度ノ經續事業トシテ舊南川敷地ニ移轉改築スルコトニ決シタリシモ諸種ノ事情ニ依リ遷延昭和十一年度ニ於テ敷地整理ヲ終リ本十二年度ニ於テ改築セラル、豫定ニシテ年度内ニハ新築成リ教授及實習設備等一層整備セラレ斯教育ノ上ニ多大ノ効果ヲ期待セラレツ、アリ。

三、設備概要

校地校舎	
校地	敷地
船置場	養魚池
本館	標本、理化室
控所	製造實習場
漁具製作所	燻製室
	四五

寄 宿 舍 三〇七、五
倉 庫 三七、〇
其他附屬建物 西、〇
看守人住宅 九、五
庫 八〇、〇
計 九六、二

製造實習設備	船名	長	幅	深	總噸數	補助機關馬力	船種
	雲龍丸	一七、六米	三、五	一、七〇	二、三、望噸	ダブルピストン デイズルエン 純四〇馬力	洋帆船
	蛟龍丸	一七、五米	三、一四	一、五二	一九、〇噸	石油發動機 二五馬力	洋(鐵)帆船
	飛龍丸	二三、〇二米	二、〇八	一、二三	八、〇噸	石油發動機 一五馬力	和洋折衷形帆船

品目	員數	品目	員數	品目	員數
多管式汽罐 汽機(二、五馬力)	一	卷縮空罐製作用 フレンジヤ	一	製罐用鐵集板切斷機	一
調味料二重釜	三	タイコス 自記寒暖計	一	製罐用端拆機	二
罐卷縮用 セミトロシ	一	罐詰殺菌用蒸釜	二	アドリアンシマー	一
クリンチャ用 セミトロシ	一	石川式蒲鉾搗潰機	一	エキゾースト ボツクス	一
罐蓋底打抜用 パープレス	二	輕便塚詰機	一		
		罐詰卷縮用 ホームシマー	一		

魚類	親	其他魚類	親	其他
養殖魚族	六頭	二〇頭	一〇〇尾	五〇〇尾

大山椒魚	四頭	緋鯉	二〇〇尾
食用蛙	二〇頭	色鯉	二〇尾
鰻	三〇疋	金魚各種	八〇尾
			五〇尾
			一〇〇尾

四八

四、昭和十二年度本校豫算

總經費	俸給	雜給	校費	國庫納金	修繕費	教練費
二四、八〇圓	一三、八三六	五、七九九	四、五四七	三〇一	一五〇	一五五

五、昭和十一年度本校收入決算

漁撈部	製造部	養殖部	雜部	計	授業料	寄宿舍使用料
六七九	四〇一	一五〇	一〇	一、一四〇	五、五五九	二三五

六、在學生徒數及原籍庫縣別調

第一學年	第二學年	第三學年	計	在籍	福井	石川	静岡	滋賀	京都	兵庫	秋田	廣島	朝鮮	鳥取	島根
五	五	五	一四	福井	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	四	四	一三	石川	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
四	四	四	一三	静岡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	一〇	滋賀	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	三	京都	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	三	兵庫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	三	秋田	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	三	廣島	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	三	朝鮮	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	三	鳥取	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	三	島根	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

七、在學生徒縣內郡市別調

第一學年	第二學年	第三學年	計	遠敷	大飯	三方	敦賀	南條	今立	丹生	坂井	大野	吉田	足羽	福井	縣外	計
三	三	三	九	遠敷	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
六	六	六	一八	大飯	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一八
一	一	一	三	三方	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	敦賀	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	南條	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	今立	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	丹生	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	坂井	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	大野	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	吉田	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	足羽	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	福井	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
一	一	一	三	縣外	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
五	五	五	一五	計	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一五

四九

計	一九二四	九一三	一四二	一一一	一一一	一三	一四六
---	------	-----	-----	-----	-----	----	-----

八、在學生徒宿所及通學別調

學生在籍數	寄宿舍		下宿		汽車		自轉車		住宅		通學	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
第一學年	五	五	八	六	一	一	四	四	二	二	六	六
第二學年	五	五	六	六	一	一	三	三	一	一	七	七
第三學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一四	一四	二〇	二〇	四	四	三	三	三	三	六	六

九、生徒父兄職業別

漁業	第一學年		第二學年		第三學年		計
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年	
第一學年	七	七	七	七	二	二	一九
第二學年	七	七	七	七	三	三	一九
第三學年	二	二	二	二	三	三	一九
計	七	七	七	七	二	二	一九

海產物商	農業	商業	工商業	官吏教員	社會商店員	其他	計
一七六	一三九	一三九	一三九	一三九	一三九	一三九	一三九
二二二	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三	一四三
七	七	七	七	七	七	七	七
一三四	一三四	一三四	一三四	一三四	一三四	一三四	一三四
二	二	二	二	二	二	二	二
一四六	一四六	一四六	一四六	一四六	一四六	一四六	一四六
二	二	二	二	二	二	二	二
一四六	一四六	一四六	一四六	一四六	一四六	一四六	一四六

一〇、入學志願者及卒業者對照

入學志願者	昭和十二年		昭和十年		昭和十一年	
	縣內	縣外	縣內	縣外	縣內	縣外
入學志願者	七	一六	六	九	七〇	一七
入學者	五	八	五	八	四九	五
計	一二	二四	一一	一七	一一九	二二

滋賀	石川	廣島	福岡	山口	愛知	北海道	北京	兵庫	東京	大阪	福井	地方	人員
一	一	二	一	二	一	三	五	五	八	一〇	三五	地方	人員
二	九	二	八	五	四	〇	三	七	八	七	七	地方	人員
熊本	佐賀	三重	香川	島根	徳島	鳥取	岡山	長崎	和歌山	愛媛	神奈川	地方	人員
四	二	二	一	五	二	六	三	五	六	九	一三	地方	人員
千葉	奈良	富山	山形	岡崎	宮崎	秋田	岐阜	高知	青森	栃木	大分	地方	人員
二	一	二	一	三	二	一	三	六	二	三	四	地方	人員
支那	滿州	關東	朝鮮	台灣	樺太	福島	岩手	長野	新潟	埼玉	宮城	地方	人員
一	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	地方	人員
二〇	七	三	九	三	七	一	一	二	一	二	二	人員	

五三

一一、卒業生地方分布状況

其他	研究	軍中	海軍	水産関係諸団体	水産関係、會社、商店	水産業、自營	職業	人員
ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ	ノ
二七六	三	一五	一三	三二	二五五	一〇二	職業	人員
死	卒	計	教	官	其他	其他	ノ	職業
業	生	員	員	員	公	會	社	職業
業	總	員	員	員	社	商	店	職業
亡	數	員	員	員	吏	店	店	職業
一六〇	一八七	一〇二七	七〇	一九五	六三	六三	人員	人員

一一、卒業生就職状況

計	製養科	漁撈科	人員
三	四	二	人員
八	六	三	人員
四	三	三	人員
三	三	六	人員
四	三	一	人員
四	三	七	人員
四	二	三	人員
三	二	一	人員
四	三	四	人員

五二

簿記	商事要項	水產經濟	水產法規	外國語	圖畫	應用機械	氣象海洋	航海運用	養殖	製造	漁撈	地理	博物
				英語	用器畫				總論	總論	日本地理	普通動物	普通植物
				四	一				二	二	一	二	二
				同	同			總論	各論	各論	外國地理	水產動物	水產植物
				上	上				二	二	二	一	二
				同	同			總論。各論		同上			水產動物
				上	上			氣象學海洋學					二
				同	同			應用機械造船					同上
				上	上			同	各論	各論			同上
				同	同			應用機械					二
				上	上				一	二			二

實驗實習	計	教	體
	練	練	操
		體操	劍道
		練	
時不定	三〇	二	二
		同	同
		上	上
時不定	二八	二	二
		同	同
		上	上
時不定	二八	二	二
		同	同
		上	上
時不定	二八	二	二

學校長ハ實驗實習ノ都合ニヨリ各學科目一學年ノ教授時數ヲ增加セザル範圍内ニ於テ各
 學科目ノ每週教授時數ヲ變更スルコトヲ得
 第二學年以上ノ學年ニ在リテハ實習ヲ課セザル期間ハ前項ノ規定ニ拘ラズ學校長ニ於テ
 各學科目ノ每週教授時數ヲ增加スルコトヲ得但シ其ノ學科目及學科目別教授時數ハ學校
 長之ヲ定ム每週教授時數ハ前二項ノ場合ト雖モ體操科ヲ除キ三十時ヲ超ユルコトヲ得ズ
 第三章 學年、教授日數、式日及休業日
 第八條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日マデ

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マデ

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日マデ

第九條 一學年ノ教授日數ハ二百五十日以上トス

第十條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フ

勅語記念日、學校記念日及卒業證書授與ノ日ニハ職員生徒學校ニ參集シテ其ノ式ヲ行フ

第十一條 休業日ハ左ノ如シ但シ實習ノ都合ニヨリ休業セザルコトアルベシ

一、祝日、大祭日、日曜日、式日

二、春季休業日 四月一日ヨリ同月七日マデ

三、夏季休業日 七月二十六日ヨリ八月三十一日マデ

四、冬季休業日 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日マデ

第四章 入學、休學及退學

第十二條 生徒ヲ入學セシムベキ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二

學期ノ始メヨリ十日以内ニ臨時入學ヲ許スコトアルベシ

第十三條 入學ヲ許可スベキ者ハ品行方正身體強健ナルモノトス

第十四條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十四年以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者

タルベシ

一、高等小學校ヲ卒業シタル者

二、國語、算術、國史、地理、理科ニ就キ本校ニ於テ修業年限二箇年ノ高等小學校卒業

程度ニヨリ行フ 學力檢定試験ニ合格シタル者

第十五條 (削除)

第十六條 入學志願者ハ學校長ノ定ムル入學願書ヲ當該學校長ニ差出スベシ

第十七條 本校生徒ニシテ退學シタル者退學後一ケ年以内ニ於テ入學ヲ志願シタルトキハ同一學

年以下ノ學年ニ限り入學ヲ許可スルコトアルベシ

第十八條 入學ヲ許可セラレタル者ハ一週間以内ニ二名ノ保證人ヲ定メ左式ノ誓約書及戶籍抄本

ヲ學校長ニ差出スベシ

保證人ノ内一名ハ親權者又ハ後見人他ノ一名ハ學校所在地ヲ距ル一里以内ニ居住シ一家

計ヲ立ツル成年ノ男子タルベシ

保證人ハ其ノ保證スル生徒在學中保護監督ニ關スル責ニ任ズルモノトス

(用紙半紙)

印紙

誓約書

私儀今般入學御許可相成候ニ付テハ在學中御規則等堅ク相守リ御教訓ニ遵ヒ專心勉學可仕仍テ保證人連署ヲ以テ此段誓約候也

年 月 日

本籍地

現住地

誰子弟又ハ戶主

本人 何

某 ㊦

右本人在學中ニ於ケル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受ケ其責ニ任ズベク此段保證候也

本籍地

現住地

職業、本人トノ續柄

保證人 何

某 ㊦

年 月 日生

本籍地

現住地

職業、本人トノ續柄

福井縣立小濱水産學校長宛

保證人 何

六二

某 ㊦

年 月 日生

第十九條 學校長ニ於テ保證人タルニ不適當ナリト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルベシ

第二十條 生徒又ハ保證人ノ住所身上等ニ異動ヲ生ジタルトキハ速ニ學校長ニ届出ツベシ

第廿一條 生徒疾病其ノ他止ムヲ得ザル事故ニ由リ引續キ二ヶ月以上出席スルコト能ハザルトキハ期間ヲ定メ保證人連署ヲ以テ學校長ニ休學ヲ願出ヅルコトヲ得其ノ疾病ニ因ルモノナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スベシ
前項ノ場合ニ於テ學校長ハ休學ヲ許可スルコトヲ得
但シ休學ノ期間ハ一ケ年以内トス

第廿二條 生徒ニシテ轉學又ハ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上學校長ニ願

出ヅベシ

第廿三條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ退學ヲ命ズ

- 一、 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二、 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三、 引續キ一箇年以上缺席シタル者
- 四、 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
- 五、 出席常ナラザル者

第五章 成績 考 査

第廿四條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ハ平素ノ學業實習ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム
成績考査ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第廿五條 學校長ハ全學科ヲ卒業セリト認メタル者ニ左式ノ證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

氏

名

年月日生

右ハ本校所定(何科)ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

割印

年月日

第 號

福井縣立小濱水産學校長 位勳爵 氏

名 印

第六章 授業料

第廿六條 授業料ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、本縣在籍者ハ年額金參拾八圓五拾錢

二、本縣内ニ本籍ヲ有セザルモノハ年額金五拾五圓

本縣内ニ本籍ヲ有セズト雖モ全戸寄留スル者ハ本縣在籍者ト看做ス

第廿七條 授業料ハ八月分ヲ除キ月割トシ毎月十日限り前條第一號該當者ニ在リテハ金參圓五拾

錢同條第二號該當者ニ在リテハ金五圓ヲ納付スベシ但シ一月又四月ハ二十日限トス

第廿八條 法令ノ規定アルモノノ外特殊ノ事情アリト認メタル場合ニ於テハ學校長ハ知事ノ認可

ヲ經テ授業料ヲ减免スルコトヲ得

第廿九條 授業料ハ出席ノ有無ニ拘ラズ之ヲ徵收ス但シ學校ノ都合ニ依ル授業ノ休止又ハ休學、

停學ノ全月ニ亘ルトキハ其ノ月ノ授業料ハ徵收セズ

第三十條 授業料ノ滯納者ニ對シテハ昇校ヲ停止シ又ハ學籍ヲ除クコトアルベシ

第七章 褒賞及懲戒

第卅一條 生徒中身体強健品行方正學業優秀ナル者又ハ學校ノ内外ヲ問ハズ篤行動勉特ニ他ノ模範ト爲スニ足ル者アルトキハ學校長之ヲ褒賞スルコトアルベシ

第卅二條 生徒中規定ニ違反シ訓戒ニ背キ又ハ生徒ノ本分ニ悖リタル者アルトキハ學校長之ヲ懲戒ス

第卅三條 懲戒ハ謹慎及停學トス

第八章 寄宿舎及寄宿舎使用料

第卅四條 生徒ハ其ノ志望ニ依リ寄宿舎ニ入ルコトヲ得

第卅五條 寄宿舎ニ關スル規定ハ學校長之ヲ定ム

第卅六條 寄宿舎ニ入ル者ハ寄宿舎使用料ヲ納付スベシ

第卅七條 寄宿舎使用料ハ月額金壹圓トシ八月ヲ除キ毎月十日限之ヲ納付スベシ但一月及四月ハ二十日限トス

第卅八條 寄宿舎使用料ハ在舎ノ有無ニ拘ラズ之ヲ徵收ス但シ學校ノ都合ニヨル閉舎又ハ退舎ノ爲在舎セザルコト全月ニ五ルトキハ其ノ月ノ寄宿舎使用料ハ之ヲ徵收セズ

第卅九條 寄宿舎使用料ハ滞納者ニ對シテハ退舎ヲ命ズルコトアルベシ

本校ノ特典

本校卒業者ハ總テ中學校卒業ト同等ノ資格ヲ有ス

學資金概算表

費用別	通 學 生			寄 宿 舎 生		
	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年
授業料	三八、五〇	三八、五〇	三八、五〇	三八、五〇	三八、五〇	三八、五〇
麗水會費	三、六〇	三、六〇	三、六〇	三、六〇	三、六〇	三、六〇
書籍費	二一、〇〇	二一、〇〇	五、〇〇	二一、〇〇	二一、〇〇	五、〇〇

入麗會費	劍道着代	竹刀代	脚絆代	機械圖代	製帽代	靴代	外套代	夏服代	冬服代	旅行費	實習費	諸雜費	學用品
一、〇〇	一、〇〇	一、二〇	六〇	三、〇〇	一、五〇	五、〇〇	一〇、〇〇	三、〇〇	四、〇〇			三、〇〇	
												三、〇〇	
												製漁 三〇、〇〇	三、〇〇
一、〇〇	一、〇〇	一、二〇	六〇	三、〇〇	一、五〇	五、〇〇	一〇、〇〇	三、〇〇	四、〇〇			三、〇〇	
												製漁 三〇、〇〇	三、〇〇

食費	宿舍費	寄宿料	使用料	机本箱代	合計
九、〇〇	五、五〇	二、〇〇	五、〇〇	二、五、四〇	二、五、四〇
九、〇〇	五、五〇	二、〇〇	五、〇〇	表、一〇	表、一〇
九、〇〇	五、五〇	二、〇〇	五、〇〇	九、一〇	九、一〇
九、〇〇	五、五〇	二、〇〇	五、〇〇	二、三、九〇	二、三、九〇
九、〇〇	五、五〇	二、〇〇	五、〇〇	金六百四拾貳圓拾錢也	金六百四拾貳圓拾錢也
九、〇〇	五、五〇	二、〇〇	五、〇〇		

備考 右表中ニハ和服、シャツ代等ヲ算入セズ
 新入生ハ五月末マデ和服ヲ着用スルコトヲ得
 帽子ハ小學用ノモノニテ可ナリ
 他府縣生ノ授業料ハ年額五拾五圓トス

第六章 水産青年學校

本縣水産青年學校ハ漁村ニ普ク設立セラレ水産界實務ニ従事スル男女青年ニ對シ心身ノ鍛鍊及徳性ノ涵養ト職業ノ實際生活ニ須要ナル知識技能ヲ修得スルヲ主眼トシ爲メニ之レニ最モ必要ナル專任教員ノ設置ヲ獎勵シ又其ノ實績ヲ舉ゲンガ爲メニハ相當ノ設備ヲ必要トスルヲ以テ之レガ整備ニ努メツ、アルヲ以テ近時頗ル普及發達セリ其ノ概況次ノ如シ。

縣下ニ於ケル青年學校中水産專任教員ヲ置クモノ左ノ如シ

學 校	生徒 數	水産專任教員	經 費	備 考
坂井郡雄島青年學校	七九	一	一、六二三圓	十年 度
坂井郡鷹巢青年學校	五五	一	一、五一六	同
丹生郡國見青年學校	七七	一	一、五七六	十一年 度
丹生郡越廼青年學校	九四	一	一、三三二	同

丹生郡四ヶ浦青年學校	二〇六	一	二、一六八	十年 度
丹生郡厨青年學校	二九	一	一、一七四	同
丹生郡城崎青年學校	八四	一	五五〇	同
南條郡河野青年學校	七三	一	二四五	十一年 度
敦賀郡常宮青年學校	四五	一	八一八	同
三方郡北西郷青年學校	五七	一	一、五一三	十年 度
三方郡西田青年學校	一一〇	一	一、四〇三	同
遠敷郡田烏青年學校	三六	一	一、〇六六	同
遠敷郡西津青年學校	一五一	一	二、二〇〇	同
大飯郡音海青年學校	一六	一	一	十二年 度ヨリ實 施

第七章 水産會

大正十年四月水産會法ノ發布ヲ見ルヤ沿海各郡ニ於テハ相踵イデ之レガ設立ヲ爲シ以テ同十

年一月縣水產會ヲ組織セリ而シテ同十五年福井市水產會設置セラレ今ヤ一市七郡ノ水產會ヲ以テ福井縣水產會ヲ成立シ專任職員四名ヲ置キ斯業ニ對スル指導獎勵ニ當ラシメ其ノ事業ノ主ナルモノハ漁獲物共同販賣斡旋ニシテ其ノ一ケ年ノ取扱高年約八、九十萬圓ニ達ス、其他礦油輸入免稅代理申請、郡水產會事業補助、講習、講話等銳意斯業ノ改善ニ努メツ、アリ。

郡市水產會ニテハ設立當時ハ其機能ノ發揮充分ナラザルモノアリシモ大正十五年郡役所ノ廢止ト共ニ萬難ヲ排シテ專任技術員ヲ設置シ極力其指導ニ努メタル結果當業者ノ信賴スル處篤ク今ヤ其基礎確固タルモノアリ。最近ノ經費概況ヲ示セバ左ノ如シ

名稱	事業所々在地	會員數	昭和十二年度豫算	施行事業
坂井郡水產會	坂井郡三國町	五六八	二、二七七	技術員設置、調査視察、講習講話、事業獎勵、遭難救恤、水產品評會
丹生郡水產會	丹生郡朝日村西田中	二二六	五、二〇三	販賣購買斡旋、視察調査、講習講話、遭難救恤、技術員設置、漁業取締、水產研究

南條郡水產會	南條郡河野村	三〇〇	二、〇一一	技術員設置、視察、講話、事業獎勵、淺海増殖、共同購買、遭難救濟
敦賀郡水產會	敦賀郡敦賀市	二二〇	二、九二二	事業獎勵、調査視察、講習講話、淺海増殖、遭難救濟、製造試驗、仲買斡旋
三方郡水產會	三方郡北西郷村早瀬	五〇〇	六、五七一	技術員設置、視察、講習會、淺海増殖、販賣斡旋
遠敷郡水產會	遠敷郡小濱町	五二二	三、〇六八	講習講話、漁業、製造試驗、淺海増殖、視察、共同施設獎勵、遭難救濟
大飯郡水產會	大飯郡高濱町	六〇〇	二、七五〇	技術員設置、事業獎勵、増殖事業調査視察、試驗、講習講話、遭難救濟、仲買斡旋
福井市水產會	福井市城町	四二	三六八	視察
福井縣水產會	同	八	八五、六三四	水產業視察、講習講話、郡水產會事業補助、共同、販賣購買、斡旋

福井縣水産會々則

第一章 總 則

第一條 本會ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ之ガ爲必要ナル指導獎勵其ノ他諸般ノ施設ヲ爲スモノトス

第二條 本會ハ福井縣水産會ト稱ス

第三條 本會ハ福井縣内ノ郡市水産會ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 本會ノ事務所ハ福井市ニ置ク

第二章 總 會

第一節 議員及特別議員

第五條 總會ノ議員ノ數ハ三十人トシ左ノ區別ニ從ヒ各郡水産會ニ於テ之ヲ選任ス

坂井郡水産會 五 人

丹生郡水産會 七 人

南條郡水産會 三 人

敦賀郡水産會 三 人

三方郡水産會 三 人

遠敷郡水産會 四 人

大飯郡水産會 四 人

福井市水産會 一 人

第六條 議員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ四年トス

補缺ノ爲選任セラレタル議員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

議員ハ任期滿了後ト雖モ其ノ選任ヲ爲シタル郡市水産會ニ於テ後任者ヲ選任スル迄其ノ任ニ在ルモノトス

第七條 議員ハ任期中其ノ選任セラレタル郡市水産會ノ會員タル資格ヲ喪失シタル時ハ退任ス



第八條 本會ハ水産業ニ關シ學識經驗ヲ有シ又ハ功勞アル者ノ中ヨリ特別議員ヲ選任ス
特別議員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ四年トス

第一節 會議

第九條 總會ハ通常總會及臨時總會トス

第十條 通常總會ハ毎年一回十二月之ヲ開ク

臨時總會ハ會長必要ト認メタルトキ及水産會法第十七條第二項ノ規定ニ依ル請求アリタルトキ之ヲ開ク

第十一條 總會ニ於テハ豫メ通知アリタル事項ノ外緊急ノ要アルモノ並ニ輕微ナルモノニ付議決ヲ爲スコトヲ得

第十二條 總會ノ議長ハ會長之ニ當リ會長事故アルトキハ副會長之ニ代ル會長及副會長共ニ事故アルトキハ出席者之ヲ互選ス

第十三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	二	人
副會長	二	人
評議員	九	人

第十四條 役員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ四年トス

補缺ノ爲選任セラレタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其職務ヲ行フモノトス任期滿了ノ爲議員ノ資格ヲ失ヒタルトキハ亦同ジ

第十五條 會長ノ職務中左ニ掲グル事項ハ副會長之ヲ分掌スルモノトス

- 一、庶務ニ關スル事項
- 二、會計ニ關スル事項

第十六條 左ニ掲グル事項ニ付テハ會長ハ之ヲ評議員ニ諮問スベシ

- 一、總會ニ議案ヲ提出スルコト

二、臨時總會ヲ招集スルコト

三、行政廳ニ建議シ又ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スルコト

第十七條

行政官廳ノ認可ヲ受クベキモノヲ除ク外總會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ會長ハ評議員ノ意見ヲ徵シ之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ會長ハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムベシ

第十八條

役員ハ名譽職トス但シ總會ノ議決ヲ經テ報酬ヲ給スルコトヲ得

第十九條

本會ハ總會ノ議決ヲ經テ顧問ヲ置クコトヲ得

第二十條

本會ニ左ノ職員ヲ置ク

主事 一人

技師 二人

書記 若干

技手 若干

主事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ掌理ス

技師ハ會長ノ命ヲ受ケ技術ヲ掌ル

書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

技手ハ上司ノ命ヲ受ケ技術ニ従事ス

前項ノ外總會ノ議決ヲ經テ必要ナル職員ヲ置クコトヲ得

第三章 委員會

第二十一條 本會ニ委員會ヲ置ク

左ニ掲グル者ヲ以テ委員トス

一、會長

二、副會長

三、總會ニ於テ選任シタルモノ 八人

前項第三號ノ委員ハ會員ニ非ザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

第二十二條 總會ニ於テ選任シタル委員ノ任期ハ選任ノ日ヨリ二年トス

前項ノ委員ハ總會ニ於テ之ヲ組織スル者ノ四分ノ三以上ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ解任スルコトヲ得ズ

第二十三條 委員ハ名譽職トス但シ總會ノ議決ヲ經テ手當ヲ給スルコトヲ得

第二十四條 委員會ハ左ニ掲グル事項ニ關シ審議決定ス

- 一、紛議ノ調停又ハ爭議ノ仲裁判斷ニ關スル件
- 二、重要施設事項ニ關スル件

第二十五條 委員會ハ會長之ヲ招集ス

委員會ハ委員ノ三分ノ二以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ
委員會ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第四章 業務

第二十六條 本會ハ水産物共同販賣及水産業必需品共同購買ノ斡旋ヲ爲ス

第二十七條 本會ノ業務ハ毎年度豫算ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 業務執行ニ關スル規定ハ總會ノ決議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第五章 會計

第二十九條 會員タル郡市水産會ハ經費分賦收入方法ノ定ムル所ニ依リ本會ノ經費ヲ負擔スルモノトス

第三十條 同一款内ニ於ケル經費ノ流用ハ會長之ヲ專行スルコトヲ得

第三十一條 本會ニ基金ヲ置ク
毎年度剩餘金ハ其ノ十分ノ一以上ヲ基金ニ編入ス

附 則

本會設立後役員ノ就任スル迄必要ナル事項ハ發起人ノ代表者之ヲ行フ

福井縣水産會共同販賣所業務規程

八二

第一條 本會ハ本會所屬會員共同ノ福利ヲ増進スル爲水産物ノ共同販賣所ヲ設置ス其名稱及地

區左ノ如シ

- 一、三國共同販賣所 地區 坂井郡三國町、雄島村、新保村
- 二、小濱共同販賣所 地區 遠敷郡小濱町、雲濱村、内外海村、西津村、大飯郡大島村

加斗村

必要ト認メタルトキハ前項ノ地區内ニ共同販賣所出張所ヲ設クルコトアルベシ

第二條 共同販賣所ハ本會所屬會員ノ漁獲物又ハ加工セル魚介類ノ販賣斡旋ヲ爲ス

前項ノ規定ニ該當セザル水産物ニ付テモ委託ニ應ジ販賣斡旋ヲ爲スコトアルヘシ

第三條 共同販賣所ニ左ノ職員ヲ置ク

所 長 一 名

書記 若干名

所長ハ會長ノ命ヲ受ケ所務ヲ掌理ス

書記ハ上司ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

前項ノ外必要アル場合ハ技術員及囑託員ヲ置クコトヲ得

第四條 所長ハ本會評議員ノ意見ヲ聽キ會長之ヲ任免シ其他ノ職員ハ會長之ヲ任免ス

第五條 共同販賣所ニ於テ爲ス物品ノ賣買ハ競賣ノ方法ニ依ルモノトス

第六條 賣買成立ノ値段ハ金額ヲ以テ之ヲ表示ス

第七條 共同販賣所ニ於ケル賣買代金ノ受渡ハ即日之ヲ決済スルモノトス

但所長ニ於テ事由アルト認ムルトキハ十五日ヲ超エザル範圍ニ於テ延期スルコトアルベ

シ

第八條 物品ノ販賣手数料ハ販賣高ノ百分ノ十以内トシ販賣ノ都度販賣ノ委託ヲ爲シタル者ヨ

リ之ヲ收受ス

八三

第九條 共同販賣所ニ於テ物品ノ買受人タラムトスル者ハ所長ノ承認ヲ受クベシ

前項ニ依リ所長ノ承認ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ所長ニ於テ適當ト認ムル二人以上ノ保証人ヲ立テ且ツ身元保証金ヲ提供スベシ

前項ノ手續ヲ完了セザルトキハ之ガ承認ヲ取消スコトアルベシ

第十條 買受人ハ共同販賣所ノ承認ヲ經テ其ノ家族其ノ他ノ代理人ヲシテ賣買ニ參加セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買受人ハ其ノ家族雇人其ノ他ノ代理人ノ共同販賣所ニ對スル行爲ニ付一切ノ責ニ任ズルモノトス

第十一條 買受人ハ共同販賣所ノ承認ヲ受クルニアラザレバ其ノ家族雇人其他代理人ノ名義ヲ以テスルモ共同販賣所地區内ニ於テハ其ノ共同販賣所以外ニ於テ第二條ニ掲グル物品ノ買付ヲ爲スコトヲ得ズ

第十二條 本會所屬會員ハ共同販賣所設置ノ地區内ニ於テハ共同販賣所以外ノ場所ニ於テ第二條

ノ物品ヲ販賣スルコトヲ得ズ

但シ特別ノ事由アルモノハ此ノ限りニアラズ

第十二條ノ二 本會所屬會員ガ前條但書ニ依テ他ニ販賣シタルトキハ其ノ販賣先及代金ヲ共同販賣所ニ届出ヅベシ

前項ノ場合ニ於テハ賣買代金ノ百分ノ四以内ニ相當スル金額ヲ徵收ス

第十三條 本會所屬會員ニハ其ノ販賣高ノ千分ノ二十以下ノ範圍ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第十四條 買受人ニシテ物品買受代金ヲ選滞ナク完納シ本規程ニ違反セザルモノニハ豫算ノ範圍ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第十五條 買受人ニシテ本規程ニ違反シ又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ取引ヲ停止シ又ハ承認ヲ取消スコトアルベシ

第十六條 共同販賣所ハ本會所屬會員ニ水産資金ノ貸付ヲ爲スコトヲ得

第十七條 水産資金ハ事業資金ノ範圍内ニ於テ所長之ヲ決定シ其ノ貸付條件及返済方法ハ所長ノ

責任ニ於テ爲スモノトス

第十八條 水産資金ノ貸付期間ハ一ケ年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十九條 共同販賣所事業資金ハ本會ノ特約シタル銀行ニ限り取引ヲナスモノトス

第二十條 共同販賣所事業資金ハ金五萬圓ノ範圍内ニ於テ所長ハ隨時借入ヲ爲スモノトス

前項借入金ニ對シテハ本會ハ其責ニ任ズルモノトス

第二十一條 共同販賣所ニ相談役若干名ヲ置キ業務ノ施設經營ニ關シ所長ノ諮問ニ應ヘ又ハ意見

ヲ提出スルモノトス

相談役ハ任期ヲ二年トシ會長之ヲ囑託ス 但シ重任ヲ妨ゲズ

第二十二條 本規程施行ニ關スル細則ハ會長ノ承認ヲ經テ所長之ヲ定ム

第二十三條 本則ハ昭和六年二月一日ヨリ施行ス

第八章 漁業組合

漁業組合ハ沿海、河川、湖沼ニ其設置ヲ見ザルナク其數九十有七ニ達セリト雖モ概シテ小組合多ク獨力ヲ以テ活動スルコト至難ナルモノアリ其施設事業ノ見ルベキモノ稀ナリ然レドモ曩ニ漁業組合令ノ改正ニ伴ヒ其ノ機能ノ擴充セラル、ヤ縣ニ於テハ專任職員二名ヲ設置シテ之ガ指導督勵ニ努メ今ヤ改組シタルモノ三十四組合ニ達シ之ヲ以テ昭和十二年一月縣漁業組合聯合會ヲ組織シ事業ノ進展ヲ企圖スベク諸般ノ計畫中ナルヲ以テ今後ノ活動見ルベキモノアルベシ。左ニ其狀況ヲ表示ス

漁業組合名稱	事務所所在地	組合員數	經費支出額	出資金積立金	保証金額	負債額	組織	共同施設事業
北 鴻北 鴻村		一三五	三五三		六四			
波 松同		四三	一三三		五七七			
濱 地雄 島村		一六	四九二		四三〇			

生左	居	蒲	茶	大	小	白	大	清	鮎	計	鷹
右四ヶ浦村	倉下岬村	生同	崎同	味浦越廻村	丹生同	丹濱同	水谷同	川國見村	川國見村	一八	巢同
一五	一五	一三	八二	一〇	二〇	五〇	二〇	五〇	五〇	八〇六	二二七
二九	三四		三、三六〇	三七	四四三	五三七		一〇六	一〇六	七、七五四	五五一
		三、三九〇	二、四六〇			九〇〇				五、七四〇	四、七四〇
五六	二、五八一	一、五六〇	四	七九		一〇八	二四	九四	九四	五、一〇六	五九〇
		三、三九〇	二、四六〇			一、五〇〇				二、八五〇	二、八五〇
		五、〇二九	二、〇〇〇			二、三三七				七、八三七	四、三九三
		同	保証責任			保証責任					保証責任
			一、販賣施設 二、販賣施設 三、販賣施設 四、販賣施設			一、船溜、船揚場 及漁礁ノ設置					一、船溜、船揚場 及漁礁ノ設置 二、販賣 三、資金ノ貸付 四、遭難救恤施設

郡	鷹巣	黒米	山納	川西	新保	江上	三國	宿	米ヶ	安島	崎	梶
鷹巣村濱鷹巣村	目同	津同	岸同	西濱四郷村	新保村新保村	上大安寺村	三國町三國町	同	同	同	同	同
一〇	二	三	一〇	二	一〇〇	三	六	五	三	六	三	一
九〇	四	五	三	一〇三	一、三四〇	二四八	五九二	一五二	一七	六八三	二〇五	二九
					一、〇〇〇							
八	三	三	五	四三	七			六	五七九	八九九	四五六	三九
					二、〇〇〇							
					三、四四							
					保証責任							
					一、販賣施設 二、販賣施設 三、販賣施設 四、販賣施設							

郡	南條郡					計	丹生川朝日村	米ノ同
	計	外野川武生町	河野同	甲樂城同	糠河野村			
東浦村	五五八	二三三	四	一三七	一四八	一一一	一一三	
東浦村	七五二	三三一	一八四	二三七	—	—	—	
東浦市	八、九四〇	—	—	四、五〇〇	四、四〇〇	—	二、二六〇	
—	一、三三三	—	一七二	九三二	二二九	—	三四三	
—	—	—	—	—	—	—	三、三九〇	
—	—	—	—	—	—	—	三、二七〇	
保證責任	—	—	—	同	無限責任	—	同	
一、蕃殖保護及増殖施設 二、販賣施設	—	—	—	同	一、遭難防止及遭難救恤施設 ナシ	—	一、販賣施設 二、遭難防止及遭難救恤施設 三、資金	

郡								
高佐同	茂原同	厨同	道口城崎村	大樟同	小樟同	新宿同	梅川同	玉川同
一三四	三〇	一八	五	七九	一三三	一三〇	六〇	二五
—	一四九	—	二二九	—	—	一四〇	七二	一〇〇
三、一〇〇	—	三、五四〇	一、六八〇	三、三〇〇	三、六六〇	—	一、八〇〇	—
五三〇	一〇	五八七	九六	五、八五六	一、〇三〇	四	一〇八	六六
六、一〇〇	—	五、九〇〇	—	五、五〇一	三、六六〇	—	三、〇〇〇	—
三、五〇〇	—	—	—	一五、六八〇	八、〇六五	—	—	—
保證責任	—	保證責任	無限責任	同	保證責任	—	保證責任	—
一、販賣施設 二、蕃殖保護及増殖施設	—	一、販賣施設 二、資金ノ貸付	一、遭難防止及遭難救恤施設	一、遭難防止及遭難救恤施設	一、販賣施設 二、購買施設 三、資金ノ貸付	—	一、遭難防止及遭難救恤施設	—

郡							飯							
名	河	遠	河	奧	計	加	本	犬	大	和	高	鹽	小	音
川	郡	郡	川	田	計	斗	鄉	見	島	田	濱	土	黑	海
中	野	野	奧	奧	一	加	本	同	大	和	高	代	飯	同
名	木	木	名	名	五	斗	鄉	村	島	田	濱	高	浦	同
田	村	村	田	田	五	加	村	村	村	村	町	濱	村	同
一三六	三七一	三七一	九七五	六七	九七五	九	二六	二二	二二七	二二三	二三〇	一四	一四	六五
五四六	一、〇九七	一、〇九七	五、八四〇	八八九	五、八四〇	七	七七	七七			五、〇六五	一八七	一八七	五五四
			七、三五〇	一、三四〇	七、三五〇				二、五四〇	二、二六〇				一、九五〇
	九	九	三、九一〇		三、九一〇		二四		一、八九二	五、八三八	四、四三三	七二七	七二七	一九二
			四、六八〇	二、〇一〇	四、六八〇					四、〇〇〇				二、五七三
			三、六〇		三、六〇				有限責任	無限責任				無限責任
				保証責任					一、蕃殖保護及増殖施設 二、資金ノ貸付					一、遭難救恤施設

郡							敷						
田	矢	志	阿	西	加	宇	泊	堅	佛	内	西	津	
鳥	代	積	納	小	尾	久	同	同	同	同	川	小	
内	同	同	犬	同	同	同	同	同	同	同	同	濱	
外	同	同	熊	同	同	同	同	同	同	同	同	町	
海	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
八九	二二	一〇	二元	一五	九	九	二五	七	一〇	九	一六	一六	
	二六	二六	五〇九	二二三	一〇七	一〇三	七六	三七	六〇四	三六			
			八七〇										
二四七	五〇	四六	八三	八四七	二、五八七	九三二	八四五	二二〇	一三九	六			
二、六七〇													
九、三六〇													
保証責任		一、〇〇〇											
			無限責任									無限責任	
一、船溜、船揚場 及漁礁ノ設置 二、購置 三、資金ノ貸付			一、船揚場及漁礁 ノ設置 二、遭難防 止及遭難救恤施設									一、購置施設 二、資金ノ貸付 三、遭難救恤施設	

漁業組合令施行細則

第一條 本令ニ於テ組合ト稱スルハ漁業組合、聯合會ト稱スルハ漁業組合聯合會、組合令ト稱スルハ漁業組合令、省令ト稱スルハ昭和九年農林省令第十七號ヲ謂フ

第二條 組合又ハ聯合會ノ事務所ニハ其ノ名稱ヲ記載シタル標札ヲ掲グベシ

第三條 組合設立ノ許可ヲ申請セントスルトキハ其ノ申請書ニ組合令第十五條第二項又ハ省令

第四條ノ規定ニ依ル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スベシ

- 一、組合ノ地區タルベキ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ニ付各部落別ニ其ノ數、設立ニ同意シタル者ノ數竝ニ設立ニ同意セザル者アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面

二、設立發起人組合令第七條及第十一條ノ手續ヲ爲シタルコトヲ證スル書面

三、組合ノ地區タルベキ區域ヲ明示スル圖面（河川ニ於ケル組合ニ在リテハ地區タルベキ區域ト河川トノ關係ヲ明示スルモノ）ニ通

四、規約寫二通

聯合會設立ノ許可ヲ申請セントスルトキハ其ノ申請書ニ組合令第六十九條第二項又ハ省令第四條ノ規定ニ依ル書類ノ外其ノ地區タルベキ區域ヲ明示スル圖面（河川ニ於ケル聯合會ニ在リテハ地區タルベキ區域ト河川トノ關係ヲ明示スルモノ）ニ通及規約寫二通ヲ添附スベシ

第四條

組合ノ地區ヲ擴張又ハ縮少スル爲規約變更ノ認可ヲ申請セントスルトキハ其ノ申請書ニ組合令第二十二條第三項ノ規定ニ依ル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スベシ

- 一、擴張又ハ縮少ノ理由書
- 二、擴張ノ場合ニ在リテハ擴張セントスル區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ニ付各部落別ニ其ノ數、地區ノ擴張ニ同意シタル者ノ數竝ニ擴張ニ同意セザル者アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面
- 三、縮少ノ場合ニ在リテハ縮少セントスル區域内ニ住所ヲ有スル漁業者タル組合員ニ付

各部落別ニ其ノ數、地區ノ縮少ニ同意シタル者ノ數竝ニ縮少ニ同意セザル者アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面

四、従前ノ地區ト擴張又ハ縮少セントスル區域トノ關係ヲ明示スル圖面

第五條

組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ申請セントスルトキハ其ノ申請書ニ組合令第二十二條第三項又ハ省令第四條ノ規定ニ依ル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スベシ

一、合併又ハ分割ノ理由書

二、合併又ハ分割セントスル區域内ニ於ケル組合員ニ付各部落別ニ其ノ數、合併又ハ分割ニ同意シタル者ノ數竝ニ合併又ハ分割ニ同意セザル者アルトキハ其ノ數及同意セ

ザル理由ヲ記載シタル書面

三、組合令第五十二條ノ二ノ場合ニ該當スル合併若ハ分割ニ付組合令第五十條ノ七ノ同意ヲ爲サザル組合員アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面

四、組合令第五十四條ノ規定ニ依リ承継スベキ權利義務ヲ記載シタル書面

五、組合令第二十一條ノ二第二項、第二十一條ノ三及第五十二條ノ規定ニ依リ組合ノ債權者ニ對シ催告ヲ爲シ又ハ辨濟ヲ爲シ若ハ擔保ヲ提供シタルコトヲ證スル書面

六、従前ノ組合ノ地區ト合併若ハ分割後存続スル組合又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立スル組合ノ地區タルベキ區域トノ關係ヲ明示スル圖面

第六條

第四條(第二號及第三號ノ規定ヲ除ク)及前條(第二號ノ規定ヲ除ク)ノ規定ハ聯合會ノ地區ノ擴張若ハ縮少ニ關スル規約變更又ハ聯合會ノ合併若ハ分割ノ認可ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第七條

第四條乃至第六條ニ該當セザル規約變更ノ認可ヲ申請セントスルトキハ組合令第二十二條第三項又ハ省令第四條ノ規定ニ依ル書類ノ外其ノ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スベシ

一、變更ノ理由書(各條毎ニ記載スルコト)

二、新舊條文ノ對照表

三、新ニ漁業法第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ目的ヲ以テ契約ヲ

變更セントスルトキハ其ノ事業計畫書

四、組合令第五十條ノ七又ハ第五十條ノ九ノ規定ニ依リ組合ノ組織ヲ變更又ハ設定セントスル場合ニ於テ組織ノ變更又ハ設定ニ同意シタル組合員ノ數竝ニ同意セザル組合員アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面

第八條 總會又ハ總代會ヲ招集シタルトキハ其ノ招集狀ノ寫ヲ添附シ其ノ旨遲滞ナク知事ニ届出ツベシ

第九條 總會又ハ總代會ニ於テ決議シタル事項ハ第十五條第二項及第二十五條ノ場合ヲ除クノ外閉會後七日以内ニ決議録ノ謄本ヲ添へ之ヲ知事ニ届出ツベシ

第十條 總會又ハ總代會ノ決議録ニハ左ノ事項ヲ記載シ且議長及議長ノ指名シタル三名以上ノ出席員之ニ記名捺印スベシ

一、開會ノ日時及場所

二、招集者ノ氏名、通知ノ事項及通知ヲ發シタル年月日

三、總會ニ在リテハ組合員ノ總數及出席者ノ員數（委任ニ依ル出席者ノ數ヲ區分シテ記載スルコト）

四、總代會ニ在リテハ總代ノ總數及出席者ノ員數

五、出席シタル役員ノ氏名

六、會議ノ顛末

七、決議シタル事項及之ニ對スル賛否ノ數

八、閉會ノ日時

漁業協同組合漁業者ニ非ザル組合員アル場合ニ於テ組合令第二十條第一項第三號、第九號及第十號ニ掲ゲタル事項中漁業權又ハ入漁權ニ關スル事項竝ニ第六號ノ二、第八號ニ掲ゲタル事項又ハ漁業法第十五條、第二十八條竝ニ漁業法施行規則第十七條第二項ノ同意ノ決議アリタルトキハ前項第三號及第七號ニ掲ゲタル事項中組合員ノ總數、出席者ノ員數及賛否ノ數ハ漁業者タル組合員ト漁業者ニ非ザル組合員ヲ區分シテ記載スベシ

第十一條 組合又ハ聯合會ハ其ノ享有スル漁業權(地先又ハ慣行專用漁業權ヲ除ク)ヲ貸付ケ又ハ處分シタルトキハ決議録ヲ添附シ其ノ旨遲滞ナク知事ニ届出ヅベシ

第十二條 起債ノ認可ヲ申請セントスルトキハ第一號様式ニ依ル申請書ニ決議録ノ謄本、理由書、事業計畫書、收支豫算書、貸借對照表(收支決算書)、財産目錄及事業報告書ヲ添附スベシ

第十三條 經費ノ分賦收入方法ノ認可ヲ申請セントスルトキハ其ノ申請書ニ決議録ノ謄本及左ノ

事項ヲ記載シタル書面ヲ添附シ事業年度開始一箇月前ニ之ヲ知事ニ差出スベシ

一、賦課期日

二、賦課率(種別及等級アルトキハ之ヲ附記スルコト)

三、徴收期限

四、中途加入者ニ對スル分賦及徴收方法

經費ノ分賦收入方法ノ變更又ハ新ニ經費ノ分賦收入方法ノ認可ヲ申請セントスルトキハ

前項ニ準ジ決議後十日以内ニ申請書ヲ差出スベシ

第十四條 組合令第二十條第一項第一號ノ經費ノ收支豫算ハ事業年度開始一ヶ月前ニ知事ニ報告スベシ

スベシ

經費ノ收支豫算ヲ決議シタルトキハ決議後十日以内ニ之ヲ知事ニ報告スベシ

第十五條 組合令第二十五條第二項及第三項ノ規定ニ依リ總會(總代會)ノ承認ヲ要スル書類ハ第二號様式ニ依リ之ヲ作成シ總會(總代會)開會ノ日ノ少クトモ七日前ニ之ヲ監事ニ提示スベシ

ベシ

前項ノ書類ハ決議録ノ謄本ヲ添へ總會(總代會)閉會ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ知事ニ届出ヅベシ

第十六條 組合令第三十二條第三項又ハ第七十一條第二項但書ノ規定ニ依リ理事又ハ監事ノ選任ノ認可ヲ申請セントスルトキハ其ノ申請書ニ決議録ノ謄本、履歷書及選任ノ事由ヲ記載

シタル書面ヲ添附スベシ

第十七條 組合令第二十三條ノ處分ヲ爲シタルトキハ事由ヲ具シ遲滯ナク之ヲ知事ニ届出ヅベシ

第十八條 解散ノ認可ヲ申請セントスルトキハ其ノ申請書ニ決議録ノ謄本、解散ノ理由ヲ記載シ

タル書面及負債アル場合ニ於テハ其ノ現在額竝ニ償還計畫ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第十九條 組合令第三十八條第二項ノ規定ニ依リ理事ニ代リ監事其ノ職務ヲ行フトキハ就職ノ年月日及其ノ氏名ヲ遲滯ナク知事ニ届出ヅベシ

第二十條 漁業法第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ組合又ハ聯合會ノ理事ハ事業年度開始後三月毎ニ第五號様式ニ依ル試算表ヲ作成シ監事ノ意見ヲ附シ翌月十日迄ニ之ヲ知事ニ報告スベシ

第二十一條 監事ハ毎年四回以上監査ヲ爲シ其ノ狀況ヲ第三號様式ノ監事監査簿ニ記入シ且之ニ捺印スベシ

第二十二條 組合令第四十一條ノ規定ニ依ル届出ハ登記シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スベシ

第二十三條 組合長、聯合會長又ハ常任ノ理事ノ選任アリタルトキハ其ノ旨遲滯ナク知事ニ報時

スベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第二十四條 出資第一回ノ持込ハ設立ノ許可書又ハ組合令第五十條ノ九第一項若ハ第二項ノ場合ニ關スル規約變更ノ認可書ノ到達シタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲サシムベシ但シ特別ノ事由ニ因リ知事ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ組合ガ合併又ハ分割ニ因リ漁業協同組合ト爲リタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 基金支出ノ決議アリタルトキハ決議録ノ謄本ヲ添へ支出ノ事由及金額ヲ遲滯ナク知事ニ届出ヅベシ

第二十六條 資金ノ借入又ハ償還ヲ爲シタルトキハ第四號様式ニ依リ其ノ旨遲滯ナク知事ニ届出ヅベシ

第二十七條 組合産業組合ニ加入シ又ハ之ヨリ脱退セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ベシ
組合産業組合ニ加入シ又ハ之ヨリ脱退シタルトキハ其ノ旨遲滯ナク知事ニ届出ヅベシ

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遲滞ナク之ヲ知事ニ届出ヅベシ

一、漁業法第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業ニ着手シ又ハ一月以上事業ヲ
休止シタルトキ

二、訴訟ノ當事者トナリ又ハ訴訟事件確定シタルトキ

三、理事、監事、假理事又ハ清算人罰金以上ノ刑又ハ過料ニ處セラレタルトキ

四、總代ノ選任アリタルトキハ其ノ住所、氏名

五、理事ノ更迭後二週間ヲ經過スルモ仍事務引繼ヲ了スルコト能ハザルトキ

六、清算人ヲ定メタルトキハ其ノ住所、氏名

七、事務員又ハ技術員ヲ任免シタルトキハ其ノ住所、氏名

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ組合又ハ聯合會ノ監事其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク之ヲ

知事ニ届出ヅベシ

一、理事缺ケタルトキ

二、組合令第三十八條第三項ノ規定ニ依リ假理事ヲ選任スルノ必要アリト認ムルトキ

第三十條 業務施行ニ關スル細則ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキハ第九條ノ規定ニ依リ

届出ヲ爲ス場合ヲ除クノ外遲滞ナク之ヲ知事ニ届出ヅベシ

第三十一條 組合又ハ聯合會ハ別ニ定ムル帳簿ヲ備ヘ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ記載シ事業及財

産ノ狀況ヲ明瞭ナラシムベシ

第三十二條 組合又ハ聯合會ノ書類ハ左ノ例ニ準ジ分類編綴スベシ

一、規約及諸規程

二、總會又ハ總代会ノ決議録及關係書類

三、理事及監事ノ協議會ニ關スル書類

四、漁業權、入漁權ニ關スル書類

五、信用評定ニ關スル書類

六、貸借對照表、經費收支決算書、剩餘金ノ處分書、財産目錄及事業報告書

- 七、經費收支豫算書及經費分賦收入方法ニ關スル書類
- 八、試算表
- 九、申請、報告、届出書類
- 十、命令通達ニ關スル書類
- 十一、加入、脱退ニ關スル書類
- 十二、債權ニ關スル證書類
- 十三、借入金ニ關スル書類
- 十四、登記ニ關スル書類
- 十五、事務引繼ニ關スル書類
- 十六、收入證憑書類
- 十七、支出證憑書類
- 十八、一般往復文書類

十九、會計ニ關スル往復文書類
 二十、庶務日誌

- 第三十三條 帳簿及書類ニハ其ノ名稱及組合又ハ聯合會ノ名稱ヲ表記スベシ
- 第三十四條 會計ニ關スル帳簿及證憑書類ハ事業年度毎ニ一括シ十年間之ヲ保存スベシ
- 第三十五條 組合令第五十條ニ依ル裁決ノ申請ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ其ノ住所、氏名、申請ノ年月日、立證竝ニ要求ノ事項及理由ヲ記載シ且證憑書類ヲ添附スベシ
- 第三十六條 漁業法若ハ之ニ基ク命令又ハ本令ニ依リ農林大臣若ハ知事ニ提出スベキ書類ハ主タル事務所所在地ノ市町村長ヲ經由スベシ但シ第三十五條ノ規定ニ依ル裁決ノ申請ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年八月福井縣令第六十二號漁業組合令施行細則ハ之ヲ廢止ス

保証責任福井縣漁業組合聯合會規約

第一章 總 則

第一條 本會ハ所屬組合ノ共同ノ目的ヲ達スル爲必要ナル施設ヲ爲スヲ以テ目的トス
第二條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、販賣施設

二、購買施設

三、資金貸付施設

第三條 本會ハ保証責任福井縣漁業組合聯合會ト稱ス

第四條 本會ノ組織ハ保証責任トス

保証金額ハ出資一口ニ付金五百圓トス

第五條 本會ノ地區ハ福井縣ノ區域トス

第六條 本會事務所ノ所在地ハ福井縣福井市トス

第七條 本會ハ地區内ニ主タル事務所ヲ有スル漁業組合ヲ以テ構成ス

第八條 所屬ノ組合ハ左ニ掲ゲタル事項(第四號乃至第六號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ漁業協同組

合ニ限ル)ニ變更ヲ生ジタルトキハ遲滯ナク之ヲ本會ニ届出ヅベシ但シ第五號及第六號

ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度ノ終ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

一、名 稱

二、事務所ノ所在地

三、事 業

四、出資一口ノ金額

五、出資ノ總口數

六、拂込ミタル出資ノ總額

前項第一號及第二號ニ掲ゲタル事項ノ變更ノ届出アリタルトキハ會員名簿ヲ訂正シ且届
出年月日ヲ記入スルモノトス

第九條 聯合會原簿ニ記載シタル事項ノ變更登記ノ申請ハ取纏メテ每事業年度ノ終ヨリ二週間以内ニ之ヲ爲スモノトス

第十條 漁業組合令ニ依ル公告ハ本會ノ揭示場ニ揭示シ且一回以上福井新聞ニ掲載シテ之ヲ爲スモノトス

第十一條 本會ノ財産ニ對スル所屬ノ組合ノ持分ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

一、出資金ニ對シテハ出資額ニ應ジ算定ス

二、其ノ他ノ財産ニ對シテハ本會解散(合併及分割ノ場合ヲ除ク)ノ場合ニ限り算定シ其ノ割合ハ平等トス

本會財産ガ出資總額ヨリ減少シタル場合ニ於テハ出資額ニ應ジ本會財産ニ對スル持分ヲ算定ス

第二章 出資及積立金

第十二條 出資一口ノ金額ハ金參百圓トス

第十三條 出資第一回ノ拂込金額ハ一口ニ付金參拾圓トス

所屬ノ組合ハ前項ノ金額ヲ超エテ任意ニ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十四條 第二回以後ノ出資拂込ハ配當スベキ剩餘金ヨリ拂込ニ充ツルモノノ外出資一口毎ニ毎年六月末及十二月末迄ニ金貳拾圓宛拂込ムモノトス

所屬ノ組合ハ前項ノ金額ヲ超エテ任意ニ拂込ヲ爲スコトヲ得

第十五條 出資ノ拂込ヲ怠リタルトキハ拂込期日後一日ニ付拂込ムベキ金額ノ千分ノ一ニ當ル過怠金ヲ徴收スルモノトス

第十六條 本會ハ出資總額ノ三倍ニ達スル迄每事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ準備金トシテ積立ツルモノトス

第十七條 過怠金及拂戻ヲ爲サザル持分額ハ之ヲ準備金ニ組入ル、モノトス

第十八條 準備金ハ損失填補ニ充ツルノ外之ヲ處分スルコトヲ得ズ

第十九條 本會ハ建物減價償却資金、設備減價償却資金及職員退職給與資金ヲ積立ツルモノトス

本會ハ建物又ハ設備ノ新造、改造又ハ買入ノ費用ニ對シ補助金ヲ受ケタルトキハ之ヲ建物減價償却資金又ハ設備減價償却資金ニ組入ル、モノトス

第二十條 建物減價償却資金又ハ設備減價償却資金ハ建物又ハ設備ノ減價償却ニ充ツルモノトス
職員退職給與資金ハ總會ノ承認ヲ經テ定メタル支給規程ニ依リ支給スル職員ノ退職給與金ニ充ツルモノトス

第二十一條 本會ハ剩餘金ヨリ特別積立金ヲ積立ツルコトヲ得

特別積立金ハ損失填補ニ充ツルモノトス但シ總會ノ決議ヲ經テ臨時ノ支出ニ充ツルコトヲ得

第二十二條 準備金、特別積立金、建物減價償却資金、設備減價償却資金又ハ職員退職給與資金ハ總會ノ決議ヲ經テ事業資金ニ融通スルコトヲ得

第三章 加入、増口及脱退

第二十三條 本會ニ加入セントスルトキハ申込書ニ左ニ掲グル書類ヲ添付シ本會ニ之ヲ差出スベシ

シ

一、規約ノ謄本

二、最近作成シタル財産目録及貸借對照表

三、漁業組合令第二十條第一項第十一號ノ決議アリタルコトヲ證スル書面

申込書ニハ設立許可ノ年月日及理事ノ氏名住所ヲ附記スベシ

本會第一項ノ申込ヲ承諾シタルトキハ其ノ旨ヲ申込者ニ通知シ出資第一回ノ拂込ヲ爲サシメタル後會員名簿ニ記載スルモノトス

第二十四條 前條ノ規定ハ所屬ノ組合出資ノ増口ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 所屬ノ組合其ノ持分ヲ讓渡サントスル場合ニ於テハ本會ノ承諾ヲ經ルコトヲ要ス

第二十三條ノ規定ハ所屬ノ組合ニ非ズシテ持分ヲ讓受ケントスル者ニ之ヲ準用ス

第二十六條 所屬ノ組合左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトアル

ベシ

一、出資ノ拂込其他本會ニ對シ支拂フベキ金錢ノ支拂ヲ怠リ二回以上督促ヲ受クルモ仍其ノ義務ヲ履行セザルトキ

二、本會ノ秩序ヲ亂シ又ハ其ノ業務ヲ妨グル行爲アリタルトキ

三、犯罪其ノ他不正ノ行爲ニ因リ本會ノ信用ヲ毀損シタルトキ

第二十七條 總會ニ於テ除名ノ決議ヲ爲シタルトキハ本會ハ事由ヲ明示シタル書面ヲ以テ其ノ旨ヲ所屬ノ組合ニ通知シ會員名簿ノ記載ヲ抹消シ且除名ノ年月日ヲ記入スルモノトス

第二十八條 所屬ノ組合事業年度ノ終ニ於テ脱退セントスルトキハ其ノ事業年度ノ終ヨリ少クトモ六月前ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ本會ニ申出ヅベシ

前項ノ場合ニアリテハ事業年度ノ終ニ於テ會員名簿ノ記載ヲ抹消シ脱退ノ年月日ヲ記入スルモノトス

第二十九條 所屬ノ組合本會ノ構成者タル資格ヲ喪失シ又ハ解散シタルトキハ本會ハ會員名簿ノ記載ヲ抹消シ且資格喪失又ハ解散ノ年月日ヲ記入スルモノトス

第三十條 所屬ノ組合脱退シタル場合ニ於テ拂戻スベキ持分ノ額ハ其ノ拂込済出資額ニ止ムルモノトス、但シ除名ニ因ル場合ニアリテハ其ノ拂込済出資額ノ半額ニ止ムルモノトス

第四十條 所屬ノ組合脱退シタル場合ニ於テ拂戻スベキ持分ノ額ハ其ノ拂込済出資額ニ止ムルモノトス、但シ除名ニ因ル場合ニアリテハ其ノ拂込済出資額ノ半額ニ止ムルモノトス

第四章 役員

第三十一條 本會ニ理事九名監事三名ヲ置ク

理事ハ會長ヲ互選ス

第三十二條 會長ハ本會ヲ代表ス會長事故アルトキハ理事ノ協議ニ依リ其ノ一人之ニ代ル

第三十三條 理事ノ任期ハ三年トシ監事ノ任期ハ一年トス但シ任期滿了後ト雖モ後任者ノ一人就任スル迄仍在任スルモノトス

前項ノ任期ハ選任ノ日ヨリ之ヲ起算スルモノトス

補缺選任ニ依リ就任シタル理事及監事ハ前任者ノ任期ヲ承繼ス

第三十四條 辭任其ノ他ノ事由ニ因リ理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ近接セル總會迄猶豫スルコト能ハザル場合ニ限り臨時總會ヲ招集シ補缺選任ヲ爲スモノトス

第三十四條 辭任其ノ他ノ事由ニ因リ理事又ハ監事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ近接セル總會迄猶豫スルコト能ハザル場合ニ限り臨時總會ヲ招集シ補缺選任ヲ爲スモノトス

總會方理事又ハ監事ノ解任ヲ決議シタルトキハ同時ニ其ノ補缺選任ヲ爲スモノトス

第三十五條 理事及監事ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ

第三十六條 理事及監事ハ名譽職トス但シ専ラ本會事務ヲ掌理スル理事ハ總會ノ決議ニ依リ之ヲ有給ト爲スコトヲ得

第三十七條 本會ニ事務員若干名ヲ置キ會長之ヲ任免ス

事務員ハ役員ノ指揮ヲ承ケ本會ノ事務ニ従事ス

第三十七條ノ二 本會ハ總會ノ決議ヲ經テ顧問ヲ置クコトヲ得顧問ハ本會ノ事業ヲ援助シ且意見ヲ開陳スルモノトス

第五章 會議

第三十八條 通常總會ハ毎年一回三月之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ開ク

一、理事ガ必要ト認メタルトキ

二、所屬ノ組合五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的及事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ召集ヲ請求シタルトキ

三、監事ガ漁業組合令第七十五條ニ依リ準用セラル、同令第三十六條第三項ノ規定ニ依リ必要ト認メタルトキ

前項第二號ノ場合ニ於テハ會長ハ其ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ二週間以内ニ之ヲ召集スベシ

第三十九條 總會ノ招集ハ少クとも七日前ニ書面ヲ以テ會議ノ目的タル事項日時及場所ヲ各所屬ノ組合ニ通知スルモノトス

第四十條 所屬ノ組合ハ本會總會ニ出席セシムル爲理事ノ互選ニ依リ代表者一名ヲ定メ之ヲ本會ニ届出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ又同ジ

第四十一條 左ニ掲グル事項ハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

一、貸借對照表、剩餘金ノ處分書、財産目錄及事業報告書ノ承認ヲ爲スコト

- 二、不動産ニ關スル物權ノ得喪又ハ變更ヲ目的トスル行爲
 - 三、負債ヲ起スコト
 - 四、所屬ノ組合ノ除名
 - 五、規約ノ變更
 - 六、理事又ハ監事ノ選任又ハ解任
 - 七、理事ノ専決處分ニ對シ承認ヲ爲スコト
 - 八、訴願、訴訟又ハ和解
 - 九、聯合會ヲ設立シ又ハ之ニ加入シ若ハ之ヨリ脫退スルコト
 - 十、聯合會ノ解散、合併又ハ分割
- 總會ニ於テハ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ非ザレバ決議ヲ爲スコトヲ得ズ但シ緊急且輕微ナル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條 前條第二號乃至第六號及第八號乃至第十號ニ掲ゲタル事項ノ決議ハ所屬ノ組合三分

ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第四十三條 前條ノ場合ヲ除クノ外總會ノ決議ハ所屬ノ組合ノ半數以上出席シ其ノ過半數ノ同意アルニ非ザレバ之ノ爲スコトヲ得ズ若シ出席者半數ニ滿タザルトキハ十日以内ニ同一事項ニ付更ニ總會ヲ招集シ所屬ノ組合ノ三分ノ一以上出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 總會ノ議長ハ會長之ニ當ル會長事故アルトキハ理事ノ協議ニ依リ其ノ一人之ニ代ル監事ノ招集シタル總會ノ議長ハ總會ヲ招集シタル監事之ニ當ル其ノ多數ナル場合ニ於テハ監事ノ協議ニ依リ其ノ一人之ニ當ル總會ニ於テ必要ト認メタルトキハ出席シタル所屬ノ組合ノ代表者中ヨリ議長ヲ互選スルコトヲ得

第四十五條 所屬ノ組合ハ他ノ所屬ノ組合ニ委シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ其ノ所屬ノ組合ハ之ヲ出席者ト看做ス

前項ノ受任者ハ委任狀ヲ本會ニ差出スベシ
所屬ノ組合他ノ所屬ノ組合ノ委任ヲ受ケテ議決權ヲ行フ場合ニ於テハ二以上ノ組合ノ委任ヲ受クルコトヲ得ズ

第四十六條 總會ノ議長ハ會議ノ決議録ヲ作り左ノ事項ヲ記載シ議長及議長ノ指名シタル三名以上ノ出席者之ニ記名捺印スベシ

一、開會ノ日時及場所

二、招集者ノ氏及、通知ノ事項及通知ヲ發シタル年月日

三、所屬ノ組合ノ總數及出席者ノ員數(委任ニ依ル出席者ノ數ヲ區分シテ記載スルコト)

四、出席シタル役員ノ氏名

五、會議ノ顛末

六、決議シタル事項及之ニ對スル贊否ノ數

第四十七條 總會ノ議事ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第六章 會計及及財産ノ管理

第四十八條 本會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル

第四十九條 本會ノ餘裕金ハ郵便貯金ト爲シ若ハ毎年總會ノ承認ヲ經タル銀行若ハ信用組合ニ之ヲ預入レ又ハ國債證券、地方債證券若ハ勸業債券ヲ買入ル、ノ外他ニ之ヲ運用スルコトヲ得ズ

第五十條 本規約ニ規定スルモノ、外財産ノ管理ニ關スル事項ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第七章 剰餘金處分並ニ損失填補及分擔

第五十一條 剰餘金ヨリ準備金ニ積立ツベキ金額ヲ控除シ尙殘餘アルトキハ特別積立金、拂込ミタル出資額ニ對スル配當金、事業分量ニ對スル配當金、役員賞與金又ハ繰越金ト爲スモノトス

第五十二條 事業分量ニ對スル配當ハ年度内ニ於テ所屬ノ組合ガ本會ニ對シテ支拂ヒタル販賣手數料又ハ購買價額ヲ參照シテ之ヲ所屬ノ組合ニ配當スルモノトス但シ配當ノ率ハ販賣シ

タル物又ハ購買シタル者ノ種類ヲ參酌シテ之ヲ異ニスルコトヲ得
拂込ミタル出資額ニ對スル配當ハ事業年度ノ終ニ於ケル所屬ノ組合ノ拂込濟出資額ニ應
ジ其ノ率ハ年六分以下トス

前二項ノ配當金ノ計算ニ付テハ圓位未滿ノ基礎金額ハ之ヲ切捨ツルモノトス

第五十三條 損失ハ先ヅ特別積立金ヲ以テ填補シ次ニ準備金ヲ以テ填補スルモノトス

第五十四條 本會ノ財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於ケル所屬ノ組合ノ損失
分擔ノ割合ハ保證金額ニ應ズルモノトス脱退シタル所屬ノ組合ノ損失分擔ノ割合亦同ジ

第八章 事業執行

第一節 販賣

第五十五條 本會ハ所屬ノ組合ノ委託ヲ受ケ其ノ取扱ヒ又ハ生産シタル物ニ加工シ若ハ加工セズ
シテ之ヲ販賣スルモノトス

第五十六條 本會ニ於テ販賣スル物左ノ如シ

一、鮮魚介藻類

二、鰯、鹽鯖、煮干鰯、海參、乾海苔、乾和布、魚粕

三、薬工品

四、漁網

五、前各號ニ掲ゲタルモノ、外總會ノ決議ヲ經タル物

第五十七條 本會ニ於テ爲ス加工左ノ如シ

一、魚粕ノ製造

二、乾海苔ノ火入

三、乾和布ノ製造

第五十八條 所屬ノ組合ハ其ノ取扱ヒ又ハ生産シタル者ニシテ本會ニ於テ取扱フモノハ自己ノ共

同販賣所ニ於テ販賣スル場合ヲ除クノ外總テ之ヲ本會ニ委託スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合又ハ本會ノ承諾ヲ得タル場合ニ

於テハ之ヲ適用セズ

第五十九條 所屬ノ組合本會ニ於テ取扱フ物ヲ本會ヲ通ゼズシテ販賣シタルトキハ其ノ旨本會ニ届出ヅベシ

第六十條 本會ハ所屬ノ組合ヨリ販賣委託物ヲ受取リタルトキハ委託者ノ請求ニ依リ代金ノ假渡ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ額ハ時價ノ十分ノ七以内ニ於テ理事之ヲ定ム

前項ノ販賣假渡金ニ對シテハ百圓ニ付日歩二錢以内ニ於テ理事ノ定メタル利息ヲ徴收スルモノトス

第六十一條 本會ハ所屬ノ組合ヨリ委託ヲ受ケタル物ヲ販賣シタルトキハ遲滞ナク委託者ニ其ノ代金ヲ支拂フモノトス

第六十二條 本會受託物ノ販賣ヲ爲シタルトキハ販賣手数料トシテ委託者ヨリ販賣代金ノ百分ノ十ヲ徴收スルモノトス

第六十三條 受託物ニシテ本會ニ於テ加工シタル物ニ付テハ別ニ加工料ヲ徴收スルモノトス

前項ノ加工料ノ額ハ總會ニ於テ決議シタル金額ノ範圍内ニ於テ理事之ヲ定ム

第六十四條 販賣假渡金及其ノ利息並ニ前二條ノ規定ニ依ル料金ハ販賣代金ノ支拂ノトキ之ヲ差引クモノトス

第六十五條 本規約ニ規定スルモノ、外販賣ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第一節 購買

第六十六條 本會ハ所屬ノ組合ノ購買スル物ヲ買入レ之ニ加工シ若ハ加工セズシテ又ハ之ヲ生産シテ所屬ノ組合ニ供給スルモノトス

第六十七條 本會ニ於テ所屬ノ組合ニ供給スル物左ノ如シ

- 一、重油、氷、鹽、餌料、網地其ノ他ノ漁具材料
- 二、米、味噌、醬油、薪炭
- 三、前各號ニ掲ゲタルモノノ外總會ノ決議ヲ經タル物

第六十八條 本會ニ於テ爲ス加工又ハ生産左ノ如シ

第六十九條 本會ニ於テ供給スル物ハ所屬ノ組合ノ注文ニ應ジテ之ヲ買入レ又ハ生産スルモノト
ス但シ供給物品ノ種類ニ依リ注文ナキ場合ニ於テモ便宜之ヲ買入レ又ハ生産スルコトヲ
得

第七十條 所屬ノ組合ハ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除クノ外本會ノ承諾ヲ得ル
ニ非ザレバ本會ニ於テ供給スル物ヲ本會ヲ通ゼズシテ購買スルコトヲ得ズ

第七十一條 所屬ノ組合ニ供給スル物ノ代價ハ市價ヲ標準トシテ理事之ヲ定ム
但シ供給物品ノ種類ニ依リ原價ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ得

第七十二條 理事ハ必要アリト認ムルトキハ所屬ノ組合ヲシテ其ノ注文シタル物ノ見積代金ノ全
部又ハ一部ヲ前納セシムルコトヲ得

第七十三條 所屬ノ組合ハ本會ヨリ購買物品引渡ノ通知ヲ受ケタルトキハ一週間以内ニ之ヲ引取
ルコトヲ要ス

第七十四條 所屬ノ組合ハ購買物品ト引換ニ其ノ代金ヲ支拂フコトヲ要ス

理事ノ承諾アリタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ網地其ノ他特殊ノ購買物品ニシテ多額ノ
代金ヲ支拂フコトヲ要スルモノニ在リテハ一年以内ニ其ノ他ノ物品ニアリテハ一月以内
ニ割賦支拂其ノ他ノ方法ニ依リ代金ヲ支拂フコトヲ得

第七十五條 所屬ノ組合購買代金ノ支拂ヲ怠リタルトキハ其ノ購買代金ニ對シテ百圓ニ付日歩三
錢以内ニ於テ理事ノ定メタル利息ヲ支拂フコトヲ要ス

第七十六條 本規約ニ規定スルモノ、外購買ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第三節 資金ノ貸付

第七十七條 本會ハ所屬ノ組合ノ共同施設事業發達ノ爲必要ナル資金ノ貸付ヲ爲スモノトス但シ
必要アル場合ニ於テハ總會ノ決議ヲ經テ一定ノ金額ヲ限リ所屬組合ノ經濟ノ發達ニ必要
ナル資金ノ貸付ヲ爲スコトヲ得

第七十八條 貸付金ノ辨濟期限ハ一年以内ニ於テ理事之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ三年以

内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第七十九條 貸付金ノ利率ハ年七分以内ニ於テ理事之ヲ定ム

第八十條 理事資金ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ保證人ヲ立テシメ又ハ擔保ヲ供セシムルモノトス

第八十一條 所屬ノ組合、貸付金ノ辨濟又ハ其ノ利息ノ支拂ヲ怠リタルトキハ支拂期日後百圓ニ付日歩三錢五厘以内ノ遅延利息ヲ徵收スルモノトス但シ其ノ割合ハ貸付ノ際契約ヲ以テ之ヲ定ム

第八十二條 所屬ノ一組合ニ對シテ爲ス貸付金額ノ最高限度ハ毎年總會ニ於テ之ヲ定ム

第八十三條 理事ハ貸付金ノ使用ノ實況ヲ調査シ貸付ノ目的ニ反スルモノアリト認ムルトキハ期限前ト雖モ辨濟ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十四條 本規約ニ規定スルモノ、外資金ノ貸付ニ關スル細則ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第九章 違反者處分

第八十五條 所屬ノ組合ニシテ第五十八條、第五十九條、第七十條又ハ第七十三條ノ規定ニ違背シタルトキハ總會ノ決議ヲ經テ金百圓以下ノ過怠金ヲ課ス

第九章 漁業取締規則

(昭和七年五月二十四日
縣令第二十九號)

第一章 總則

第一條 左ニ掲グル漁業ヲ爲サムトスル者ハ一行體毎ニ知事ニ出願シ許可ヲ受クベシ但シ第三號及第五號ノ漁業ヲ除クノ外專用漁業權又ハ入漁權ニ因リテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 さざり網漁業
- 二 柴漬漁業
- 三 威繩漁業

- 四 釜漁業(逆釜及吊釜)
- 五 鵜飼漁業
- 六 流網漁業(いわし、さけ、ます、あじ、さば、さわらノ採捕ヲ目的トスルモノ)
- 七 刺網漁業(さけ、ます、あじ、さばノ採捕ヲ目的トスルモノ)
- 八 縛網漁業
- 九 地曳網漁業(一定ノ曳揚場ヲ有セザルモノ)
- 十 船曳網漁業(一定ノ曳寄場ヲ有セザルモノ)
- 十一 打瀬網漁業(方言えび帆曳網漁業及あみ帆曳網漁業ヲ含ム)
- 十二 巾着網漁業
- 十三 揚繰網漁業
- 十四 たこ壺漁業
- 十五 卷刺網漁業(ぶりこ、とびうを、こかつを、ぼらノ採捕ヲ目的トスルモノ)

十六 敷網漁業(一定ノ網場ヲ有セザルモノ)

十七 前各號以外ノ河川ニ於ケル網漁業(幅又ハ長サ十米以上ノモノ)

前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ漁業鑑札ヲ交付ス

第二條 定置漁業、區劃漁業、特別漁業及本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スル以外ノ漁業ヲ爲サムトスル者ハ住所地所轄ノ市町村長ニ届出デ漁業鑑札ヲ受クベシ

第三條 漁業許可ノ期間ハ五年以内トス

前項ノ期間ハ知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 許可期間ヲ更新セムトスルトキハ期間滿了ノ日ヨリ三十日前迄ニ之ヲ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テハ許可ノ處分ヲ受クル迄其ノ漁業ヲ繼續スルコトヲ得

第五條 漁業ノ許可ヲ受ケタル者漁業ノ場所、漁獲物ノ種類又ハ漁業ノ時期ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クベシ

第二條ノ規定ニ依リ漁業ヲ爲ス者漁業ノ場所、漁獲物ノ種類又ハ漁業ノ時期ヲ變更セム

トスルトキハ住所地所轄ノ市町村長ニ其ノ旨届出ヅベシ

第六條 漁業ノ許可ヲ受ケタル者死亡シ其ノ家督相續人引續キ其ノ漁業ヲ營ムトキハ被相續人ニ爲シタル許可ノ効力ハ家督相續人之ヲ承繼シタルモノト看做ス

第七條 漁業鑑札ハ漁業ヲ爲ストキ之ヲ携帯スベシ

第四條、第五條、第九條又ハ第十六條第三項ノ出願若ハ申請中漁業ヲ爲サムトスル者ハ市町村長ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 漁業鑑札ハ之ヲ讓渡、質入又ハ貸付スルコトヲ得ズ

第九條 漁業鑑札ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク再下付又ハ書換ヲ申請スベシ

住所若ハ氏名ヲ變更シ又ハ家督相續人家督相續ニ因リ許可ノ効力ヲ承繼シタルトキハ戶籍抄本ヲ添ヘ其ノ事實アリタル日ヨリ二十日以内ニ漁業鑑札ノ書換ヲ申請スベシ但シ住所變更ノ場合ハ戶籍抄本ノ添附ヲ要セズ

第十條 漁業ヲ廢止シ又ハ許可ノ効力消滅シタルトキハ廢止又ハ失效ノ日ヨリ二週間以内ニ其

ノ旨届出漁業鑑札ヲ返納スベシ

漁業ノ許可ヲ受ケタル者死亡シ許可ノ効力消滅シタルトキハ死亡届出義務者前項ノ手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ハ第二條ニ依ル漁業ヲ爲ス者死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 漁業許可ノ出願ニシテ水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他漁業取締上必要アリト認ムルトキハ之ヲ許可セズ

第十二條 漁業ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可シタル漁業ヲ制限シ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルベシ

- 一 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上害アリト認ムルトキ
- 二 本令又ハ漁業ニ關スル他ノ法令ニ違背シタルトキ
- 三 許可ノ條件又ハ制限ニ違背シタルトキ

第十三條 漁業ノ許可ヲ受ケタル者許可ノ日ヨリ引續キ一年間休業シタルトキハ許可ヲ取消スコ

トアルベシ但シ知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 本令ハ漁業法施行規則第五十條ノ漁業ニ之ヲ準用ス

第一章 出願、申請及届出ノ手續

第十五條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁業登録令ニ依ルモノヲ除ク外漁場ヲ管轄スル市

町村長ヲ經由スベシ但シ漁場ヲ管轄スル市町村明確ナラザルトキ又ハ二以上ノ市町村ニ跨ルトキハ住所地ノ市町村長ヲ經由スベシ

本縣内ニ住所ヲ有セザル者ノ前項ノ漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ本縣内ニ假住所ヲ定メ其ノ住所地ヲ管轄スル市町村長ヲ經由スベシ

農林大臣ニ提出スル漁業ニ關スル願書、申請書及届書ハ漁業法施行規則ニ依ル書類ノ外別ニ副本一通ヲ添附スベシ

第十六條 二人以上共同シテ漁業ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ内一人ヲ代表者ト爲シ願書ニ之ヲ記

載スベシ

前項ノ規程ニ依ル代表者ノ記載ナキトキハ知事之ヲ指定スルコトアルベシ

代表者ヲ變更シタル場合ハ其ノ事實アリタル日ヨリ二十日以内ニ漁業鑑札ノ書換ヲ申請スベシ

前三項ノ規定ハ二人以上共同シテ第二條ニ依ル漁業ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 漁業許可ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 漁業ノ名稱
 - 二 漁業ノ場所
 - 三 漁獲物ノ種類
 - 四 漁業ノ時期
 - 五 許可期間
- 知事必要ト認ムルトキハ事業計畫書、漁船、漁具ノ構造圖、使用方法書及漁場圖其ノ他

ノ書類ヲ提出セシムルコトアルベシ

第十八條 第二條ノ規定ニ依ル漁業ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 漁業ノ名稱
- 二 漁業ノ場所
- 三 漁獲物ノ種類
- 四 漁業ノ時期

第十九條 許可ヲ受ケ又ハ届出ニ依リ漁業ヲ爲ス者第三條第二項、第五條、第九條及第十六條第三項ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ漁業鑑札ヲ添附スベシ但シ漁業鑑札ヲ亡失シタル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ附記スベシ

第三章 禁止制限

第二十條 左ニ掲グル水産動物ハ之ヲ採捕シ若ハ所持シ又ハ販賣スルコトヲ得ズ但シ増殖ニ供スル目的ヲ以テ所持販賣スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 あわび貝殻 長徑十糎未満ノモノ
- 二 さけ、ますノ産下シタル卵子
- 三 さけ體長十五糎未満ノモノ
- 四 ます(方言あまごヲ含ム)、かわます、ひめます、にじます、しろます、體長六糎未満ノモノ

第二十一條 左ニ掲グル水産動物ハ各號ニ定ムル期間内ニ於テ之ヲ採捕シ又ハ採捕シタルモノ若ハ其ノ製品ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ズ

- 一 あゆ(方言ひうをヲ含ム)一月一日ヨリ五月三十一日迄但シ海面ニ於テあゆヲ目的トセザル地曳網ニ依リテ採捕セラレタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 體長二十五糎未満ノます(方言あまごヲ含ム)三月一日ヨリ四月三十日迄
- 三 ます 八月一日ヨリ十一月三十日迄
- 四 ます 九頭龍川本流及支流ニ限り五月十五日ヨリ七月三十一日迄ノ期間内ニ於テ毎

週金曜日午前六時ヨリ翌日午前六時迄

五 さげ 十一月一日ヨリ十一月十日迄

六 ばふんうに(方言まがんじよ、まがせヲ含ム) 八月二十一日ヨリ翌年七月二十日迄

七 ずわいがにノ雌(方言せいこがにヲ含ム) 二月十一日ヨリ十一月十五日迄

八 ずわいがにノ雄 四月一日ヨリ十一月十五日迄

九 なまこ 六月一日ヨリ十二月十日迄

十 あわび 十月一日ヨリ十一月三十日迄

第二十二條 左ニ掲グル區域ヲ禁漁區トシ同區域内ニ於テハ各號ニ定ムル期間内水産動植物ノ採

捕ヲ禁止ス

一 三方郡北西郷村早瀬地先早瀬川口右岸突堤末端ヲ基點トシ七十米圈内ノ水面及早瀬

橋ヨリ上流四十米ノ地點ヨリ下流河口迄ノ水面 三月十五日ヨリ六月三十日迄

二 九頭龍川 大野郡五箇村西勝原發電所用堰ヨリ上流へ百米下流へ二百米ノ水面 三

月一日ヨリ十一月三十日迄

三 足羽川 今立郡上池田村持越發電所用堰ヨリ上流へ百米下流へ二百米ノ水面 三月

一日ヨリ十一月三十日迄

四 足羽川 足羽郡上宇坂村藏作發電所用堰ヨリ上流へ百米下流へ二百米ノ水面 三月

一日ヨリ十一月三十日迄

五 足羽川 足羽郡酒生村宿布發電所用堰ヨリ上流へ百米下流へ二百米ノ水面 三月一

日ヨリ十一月三十日迄

六 日野川 南條郡湯尾村湯尾發電所用堰ヨリ上流へ百米下流へ二百米ノ水面 三月一

日ヨリ十一月三十日迄

七 九頭龍川 吉田郡森田村舟橋ヨリ上流へ四百五十米下流へ六百五十米ノ水面 九月

一日ヨリ十一月三十日迄

八 足羽川 足羽郡酒生村稻津橋ノ下流九百米ノ地點ヨリ下流へ五百五十米ノ水面 九

月一日ヨリ十一月三十日迄

九 日野川 日野川天王川合流點ヨリ上流へ五百八十米ノ水面九月一日ヨリ十一月三十日迄

十 笹ノ川 敦賀郡敦賀町三島橋ヨリ下流へ松原村來迎寺橋迄ノ水面 九月一日ヨリ十一月三十日迄

十一 南川 (イ) 遠敷郡今富村湯岡橋ヨリ上流へ二百米下流へ二百米ノ水面 九月一日ヨリ十一月三十日迄

(ロ) 遠敷郡今富村鐵道鐵橋ノ下流二百七十米ノ地點ヨリ下流へ五百五十米ノ水面 九月一日ヨリ十一月三十日迄

十二 北川 (イ) 遠敷郡國富村丸山橋ヨリ上流へ三百米ノ水面 九月一日ヨリ十一月三十日迄

(ロ) 遠敷郡國富村高塚橋ノ下流九百八十米ノ地點ヨリ下流へ四百五十米

ノ水面 九月一日ヨリ十一月三十日迄

十三 九頭龍川及眞名川 眞名川ト赤根川トノ合流點ヨリ眞名川ト九頭龍川トノ合流點ニ至ル眞名川ノ水面及眞名川ト九頭龍川トノ合流點ヨリ下流下荒井橋ニ至ル九頭龍川ノ水面 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

十四 日野川 日野川ト牧谷川トノ合流點ヨリ上流及下流へ四百五十米ノ水面 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

十五 堂田川 日野川ト堂田川トノ合流點ヨリ上流へ四百五十米ノ水面 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第二十三條 左ニ掲グル區域ヲ禁漁區トシテ同區域内ニ於テハ各號ニ定ムル期間内さけノ採捕ヲ

禁止ス

一 三國港防波堤末端ヨリ坂井郡雄島村米ヶ脇片苔崎ニ至ル線以内ノ海面 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

二 三國港防波堤標燈柱ヲ基點トシ百六十度三十分ノ方位線ト鷹巢村龜島岬ヲ基點トシ四十四度ノ方位線トノ交叉點ヨリ三國港防波堤末端ニ至ル線及三國港防波堤標燈柱ヲ基點トシ百二十八度ノ方位線ト九頭龍川河川臺帳三角點第一號ヲ基點トシ百九十六度三十五分ノ方位線トノ交叉點ヨリ五十一度八分ノ方位線トノ間ノ水面

第二十四條 左ニ掲グル區域内ニ於テハ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ズ
武周湖及武周川中幣ヶ瀧ヨリ武周湖ニ至ル迄ノ間

第二十五條

左ニ掲グル漁業ハ各號記載ノ區域内ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ズ

一 打瀬網漁業(方言えび帆曳網漁業及あみ帆曳網漁業ヲ除ク)
三方郡西田村常神御神島北端ヨリ丹後ノ國沖ノ島北端見通線以南ノ海面及御神島北端ヨリ越前岬見通線以東ノ海面

二 しらす及こをなご曳網漁業(しらすを地曳網漁業及言磯曳網漁業ヲ含ム)六月一日ヨリ十二月三十一日迄ヲ除ク

(イ) 敦賀郡筥ノ川口中心ヨリ左右側海岸各六十米其ノ沖合二百米ノ海面

(ロ) 三方郡耳川口丸礁ヨリ耳村南西郷村境界線ノ海ニ接スル點見通線以内ノ海面

(ハ) 遠敷郡内外海村二兒嶋西端ヲ基點トシテ小濱町南川口防波堤末端ニ至ル線ト西津村雲濱村境界線ノ海ニ接スル點ニ至ル線トノ間ノ海面

第二十六條

左ニ掲グル漁具又ハ漁法ニ依リ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ズ

一 十五糎ニ付十節以上ノ網地ヲ用フル沖手繰網、打瀬網(方言えび帆曳網及あみ帆曳網ヲ除ク)

二 縋子網又ハ十五糎ニ付十二節以上ノ網地ヲ用フル磯手繰網(方言ひめじ網ヲ除ク)藻曳網(方言ちよま網ヲ除ク)

三 河川ニ於テ火光(電燈ヲ含ム)ヲ用フル漁法但シ鵜飼漁業ニ用フル篝火ハ此ノ限ニ在ラズ

四 鵜 繩

- 五 水中ニ電流ヲ通ジテ爲ス漁法
- 六 あゆ刺網及あゆ流網但シあゆ撒網(方言わきなげ)ヲ除ク
- 七 築
- 八 あゆ友釣(舟ニ依ルモノ)
- 九 あゆ空懸釣(方言ころく)釣、立ころ釣、やまと懸釣、てんかん釣ヲ含ム但シ九頭龍川ニ於テ九月以降舟筏ノ類ニ依ラズシテ爲スモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 十 水覗器(硝子箱、水眼鏡其ノ他之レニ類似ノ一切ノモノヲ含ム)但シ河川ニ於テ使用スルモノニ限ル
- 十一 あゆ引懸
- 十二 瀬替又ハ江替
- 十三 あゆ流釣

第二十七條 漁業者ニ非ザル者ハ左ニ掲グル漁具又ハ漁法ニ依ルノ外水産動植物ヲ採捕スルコト

ヲ得ズ但シ自家用肥料藻ノ採捕ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 魚介藻類ノ徒手採取(あわびヲ除ク)
 - 二 手釣
 - 三 竿釣(あゆ空懸釣ヲ除ク)
 - 四 徒歩投網
 - 五 あゆ撒網(方言わきなげ)
 - 六 抄網 但シ一、五米以上ノ網ヲ用フルコトヲ得ズ
- 第二十八條 養殖又ハ學術研究其ノ他特別ノ事由ニ依リ制限禁止シタル水産動植物ヲ採捕シ又ハ制限禁止シタル漁具漁法ニ依リ若ハ禁漁區域内ニ於テ水産動植物ヲ採捕セムトスル者ハ左記事項ヲ記載シタル書面ニ履歴書ヲ添附シ知事ニ出願シ許可ヲ受クベシ
- 一 採捕ノ目的
 - 二 採捕セムトスル水産動植物ノ種類

- 三 採捕ノ場所
- 四 採捕ノ時期
- 五 採捕ノ方法
- 六 許可期間

前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ許可證ヲ下附ス
許可證ハ採捕ニ從事中之ヲ携帯スベシ

第二十九條

遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲サムトスルトキハ河川流幅ノ五分ノ一以上ノ魚道ヲ開通スベシ但シ知事ノ指定シタル方法ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ魚道不適當ト認ムルトキハ之ガ變更ヲ命ズルコトアルベシ
前二項ノ規定ハ三方諸湖、日向湖及北潟湖ノ漁業ニ之ヲ準用ス

第三十條

威繩漁場ノ上流六十米以内ノ區域内ニ於テハ該漁業着手後ハ免許漁業權ニ基ク漁具ノ外使用スルコトヲ得ズ

第三十一條

水産動植物ニ有害ナリト認ムル物質ヲ遺棄又ハ放流スルトキハ之ヲ制限、禁止シ又ハ其ノ除害ニ適當ナル設備ヲ爲サシムルコトアルベシ

第四章 保護區域

第三十二條

定置漁業及特別漁業ニ付左ノ保護區域ヲ設ク

一 定置漁業

(イ) 臺網類漁業

- 鯿大敷網 網ノ前面千八百米 網ノ後面三百五十米 沖合三百五十米
- 鯿大謀網 同
- 鮎大敷網 同
- 鮎大謀網 同
- 鯖大敷網 網ノ前面九百米 網ノ後面二百米 沖合百七十米
- 鯖大謀網 同

鯉大謀網 同

鯉大謀網 網ノ前面七百五十米 網ノ後面二百米 沖合百十米

鯉大敷網 同

其ノ他ノ大敷網 網ノ前面五百米 網ノ後面百五十米 沖合五十米

角 網 網ノ前面四百五十米 網ノ後面百五十米 沖合五十米

其ノ他臺網類 網ノ前面三百米 網ノ後面百米 沖合三十米

(ロ) 落網類漁業

瓢 網 網ノ前面四百五十米 網ノ後面百五十米 沖合五十米

落網 同

其ノ他ノ落網類 網ノ前面三百米 網ノ後面百米 沖合三十米

(ハ) 柵網類漁業 網ノ前面二百米 網ノ後面四百米 沖合三十米

(ニ) 建網類漁業 同

(ホ) 出網類漁業 同

(ヘ) 魼築類漁業

瀬張堰(方言あど) 堰ノ下流三百米

魼 漁場ノ周圍五十米

其ノ他ノ魼築類漁業 漁場ノ前面百米 漁場ノ後面五十米

二 特別漁業

第三種漁業 漁場ノ周圍 二百五十米但シ河川ニ在リテハ漁場ノ下流百米

第四種漁業 漁場ノ周圍 二百五十米

第五種漁業 同

第六種漁業 漁場ノ周圍 五百米

第七種漁業 同

第八種漁業 漁場ノ周圍 二百米

第九種漁業 漁場ノ周圍 二百五十米

前項第一號ノ漁業ノ保護區域中網ノ前後兩面ノ距離ハ漁具ニ兩口ヲ備フルモノニ付テハ前後兩面ノ距離ヲ合計シ之ヲ二分シタルモノヲ各兩面ノ距離トス

第一項第一號ノ保護區域ノ測定ハ網ノ前後兩面ノ距離ニ付テハ磯垣網ノ磯ノ止メ及沖ノ止メノ兩點ヲ連結シタル直線ヲ基準トシ沖ノ距離ニ付テハ該區域ノ沖ノ線ヨリ計算スルモノトス

第三十三條 保護區域内ニ於テハ其ノ漁業ニ從事中該漁業ノ目的トスル魚類ヲ採捕シ又ハ其ノ魚類ノ通路ヲ遮斷シ之ヲ散逸セシメ若ハ之ヲ他ニ誘導セシムル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ但シ定置漁業權又ハ特別漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五章 漁場標識

第三十四條 漁業權者ハ漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁場標識ヲ建設スベシ但シ知

事ノ承認アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 漁場標識ハ十二稜角以上水面又ハ地上ヨリ高サ一、五米以上ニ建設シ左記事項ヲ記載スベシ

- 一 免許番號
- 二 漁業ノ種類及名稱
- 三 漁場ノ位置
- 四 漁業權者ノ住所氏名又ハ名稱(共有ノ場合ハ代表者ノ住所氏名又ハ名稱)
- 五 漁業權ノ存續期間
- 六 免許ノ年月日

知事必要ト認ムル場合ハ漁場標識トシテ別ニ前項各號ニ掲グル事項ヲ記載シタル浮標ヲ設置セシムルコトアルベシ

第三十六條 漁場標識ハ記載事項ニ變更アリタルトキ又ハ亡失若ハ汚損、腐朽シタルトキハ之ヲ

書換再建スベシ

第三十七條 漁業權消滅シタルトキハ十日以内ニ漁場標識ヲ撤去スベシ

第三十八條 大謀網又ハ大敷網ヲ敷設シタルトキハ豪浮ニ晝間ハ旗ヲ夜間ハ燈火ヲ掲グベシ但シ

荒天其ノ他己ムコトヲ得ザル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 罰 則

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第一條、第五條第一項、第二十條、第二十一條、第二十四條乃至第二十七條、第三十條及第三十三條ニ違反シタルトキ

二 第八條ニ違反シ又ハ第十二條、第二十九條第二項及第三十一條ニ依ル命令ニ從ハザルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁具、漁獲物及製品ハ之ヲ沒收ス若シ犯人ノ所有シタル漁獲物若ハ製品ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其

ノ價格ヲ追徴ス

第四十條 第二條、第五條第二項、第七條、第九條、第十條、第三十四條乃至第三十八條ノ規定

ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

附 則

第四十一條 本令ハ昭和七年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十二條 大正六年五月福井縣令第十四號漁業取締規則ハ之ヲ廢止ス

第四十三條 本令ニ依ル許可ニシテ從前ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做ス但シ其ノ許可期間ハ許可ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十四條 本令ニ依リ新ニ許可ヲ要スルニ至リタル漁業ヲ爲ス者ハ本令施行後二箇月以内ニ限リ本令ニ依ル許可ヲ受ケザルモ仍從前ノ例ニ依リ其ノ漁業ヲ爲スコトヲ得

前項ノ漁業者ガ前項ノ期間内ニ其ノ許可ヲ出願シタルトキハ其ノ許可ノ處分ヲ受ケタル迄ノ間亦前項ニ同ジ

同同同同同同同同同同同同同同

二艘張網
ぶりこ建網
ます建網
いなし落網
さば落網
あち落網
いか落網
とびうを落網
さけ落網
ます落網
こうなご落網
たら落網
かます落網
いか地獄網
とびうを地獄網

一八二 | 四二五 一 一 三 二 三 一

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | 二 | 一 四 五 | 三 | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

一八三二一九七三 五 一 一 三 二 三 一

一六一

同同同同同同同同同同同同同同同

いなし小臺網
いか小臺網
ます縮網
さけ縮網
いか縮網
ぶり縮網
ぶりこ縮網
かます縮網
こうなご縮網
ふぐ縮網
いなし縮網
たら縮網
あち縮網
さば縮網
たなご縮網

三 一 三 一 一 一 | 二 | | 四 二 四 一 一

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | 一 | | 二 一 二 二 二 一 八 | |

| | | | 四 一 | 三 | | 四 | 四 | |

三 一 三 二 五 二 二 六 二 二 四 三 六 一 一

一六〇

計 第一種漁業 かけ養殖業

一三一

一

一

一

一五一

一六六

第十一章

許可漁業調

昭和十一年十二月三十一日現在

漁業名稱	漁業者		計	備	考
	個	人			
機船 底曳網 漁業	一	四	一五〇		
いわし 流網 漁業	二	七	六七		
とびうを巻刺網 漁業	二	三	二		
ぶりこ巻刺網 漁業	二	三	二		
えび帆 曳網 漁業	二	四	二		
機船二隻廻	二	四	二		
さば巾着網 漁業	七		二		

機船一隻廻	さば巾着網 漁業	一	四	三	
二隻廻	さば巾着網 漁業	一	一	一	
あち巾着網 漁業		一	一	一	
いか巾着網 漁業		一	一	一	
機船二隻廻	いわし巾着網 漁業	二	二	二	
機船一隻廻	ぼら巾着網 漁業	一	一	一	
たこ壺 漁業		一	四	六	
さば流網 漁業		二	〇	〇	
あち刺網 漁業		三	五	五	
たこ空釣 漁業		三	三	三	
潜水器 漁業		四	四	四	
さば揚繰網 漁業		一	一	一	
あち地曳網 漁業		一	一	一	

一六七

計	うぐひ	鶏飼	いささ	ます	釜	威	さば
	廻網	漁業	漁業	流網	漁業	繩	地曳網
	漁業					漁業	漁業
六	一	一	二	一	三	五	一
七							
八	一	一	二	一	三	五	一
三							

第十二章 魚市場取締規則

第一條 本則ニ於テ魚市場ト稱スルハ水産物(製造品ヲ除ク)ヲ競賣又ハ委託販賣スル一定ノ場所ヲ謂フ

第二條 市場ヲ開設セムトスル者ハ左ノ各號ヲ具シ知事ニ出願許可ヲ受クベシ

- 一 資本金額(固定資本トヲ區別シテ記載スルコト)
- 二 一箇年ノ販賣見込額
- 三 建設物ノ構造及面積並ニ汚水排泄溝ノ位置ヲ記載シタル圖面
- 四 市場周圍六十間以内ノ見取圖
- 五 市場業務規程

前項ノ外開設者ガ法人ナルトキハ定款、二人以上ナルトキハ相互ノ契約書ヲ添附スベシ

第三條 市場業務規程ニハ左ノ事項ヲ規定スベシ

- 一 市場ノ名稱位置
- 二 取引物品ノ種類
- 三 取引相手方及販賣ノ方法
- 四 市場開閉ノ日時及休業日
- 五 市場ニ於テ徵收スル手数料及其ノ徵收方法

- 六 仲買人ニ對シ歩戻ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ歩合及之ガ支拂ノ方法
- 七 賣買代金ノ受渡方法
- 八 設備スベキ帳簿ノ種類
- 九 買受人ヨリ保證金ヲ徵スルモノニ在リテハ其ノ金額及保管竝處分ノ方法
- 十 清潔施行方法
- 十一 前各號ノ外必要ト認ムル事項

第四條 市場開設許可ノ期限ハ十箇年以内ニ於テ之ヲ定ム但シ滿期前一箇年以内ニ於テ更ニ營業ノ繼續ヲ願出ヅル者ニ對シテハ許可スルコトアルベシ

第五條 市場業務規程、建物ノ構造、面積、汚水排泄溝ノ位置ヲ變更セムトスルトキ又ハ既設市場ノ營業ヲ繼承セムトスルトキハ知事ノ認可ヲ受クベシ

資本金額及定款、契約書ニ異動又ハ變更ヲ來シタルトキハ速ニ知事ニ届出ヅベシ

第六條 市場建設物ノ構造ガ竣工シタルトキハ其ノ使用前所轄警察官署ニ届出デ之ガ検査ヲ受

クベシ其ノ構造ヲ變更又ハ改築シタルトキ亦同ジ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ市場ノ開設ヲ許可セズ

- 一 禁鋼以上ノ刑ニ處セラレ滿期若ハ赦免後三箇年ヲ經過セザル者
- 二 本則ニ依リ市場開設許可ノ取消處分ヲ受ケタル者
- 三 刑ノ言渡ヲ受ケ其ノ執行猶豫中ノ者

第八條 市場ノ營業ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ又ハ之ヲ休止シタルトキハ速ニ其ノ旨知事ニ届出ヅベシ

第九條 市場主ハ水産物ノ仲買又ハ魚商ヲ兼ヌルコトヲ得ズ地方ノ情況ニ依リ知事ノ認可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 市場主ハ販賣委託者ニ對シ自己ノ外他人ト水産物ノ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ザル意思ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條 市場ニ備フベキ帳簿ニハ其ノ取扱物品及販賣代金竝手数料等ノ受拂ヲ其ノ事實ノ發生

シタル都度之ニ記載スベシ

第十一條ノ二 市場主ハ其ノ日ノ市場相場ヲ取引魚類ノ種類別ニ量目ニ依リ最高最低普通ニ區分シ市場ノ見易キ場所ニ揭示スベシ

第十一條ノ三 法人タル市場主ハ決算期毎ニ遲滞ナク貸借對照表、損益計算書、事業成績書及剰餘金處分方法ヲ知事ニ届出ヅベシ

法人ニ非ザル市場主ハ毎年一月ヨリ六月マデノ分ヲ其ノ年七月二十日迄ニ七月ヨリ十二月マデノ分ヲ翌年一月二十日迄ニ損益計算書及事業成績書ヲ知事ニ届出ヅベシ

第十二條 取締上必要アルトキハ知事ハ本令ノ外別ニ命令ヲ發シ又ハ監督員ヲシテ市場ニ臨檢セシメ帳簿其ノ他ノ文書ヲ檢査セシムルコトアルベシ

第十三條 市場主ノ行爲ガ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ事業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

一 本令又ハ本令ニ基キテ發シタル命令ニ違背シタルトキ

二 公益ヲ害シ又ハ害スルノ虞アルトキ

市場主ニシテ第七條第一號又ハ第三號ニ該當シタルトキハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十四條 第二條、第五條第一項、第九條、第十條、第十一條ノ二ノ規定ニ違背シ若ハ第十二條ノ命令ニ違背シ又ハ檢査ヲ拒ミタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條第二項、第六條、第八條、第十一條ノ三ノ規定ニ違背シ若ハ第十一條、第十二條ノ三ノ帳簿書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス第十一條ノ二ノ揭示ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

前二項ノ罰則ハ法人ニ之ヲ適用ス

第十五條 市場主ハ代理人使用人其ノ他ノ従事者ニシテ本則ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルルコトヲ得ズ

第十六條 本令ニ依リ知事ニ提出スベキ書類ハ所轄町村役場及郡市役所ヲ經由スベシ

附 則

一七四

第十七條 本令施行前知事ノ許可ヲ得テ市場ヲ開設シ現ニ其ノ營業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ

一箇年間ハ本令ニ依リ許可ヲ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ有ス前項ノ期間經過後仍其ノ

業務ヲ繼續セムトスル者ハ其ノ期間滿了前本令ニ依リ知事ノ許可ヲ受クベシ

第十八條 本令ハ漁業組合及産業組合ニ於テ共同販賣ヲ爲スモノニハ之ヲ適用セズ

(非賣品)

昭和十二年五月二十五日印刷
昭和十二年六月一日發行

福井縣水産會

印刷人

福井市佐佳枝中町一四二番地
和久本 金治

印刷所

福井市佐佳枝中町一四二番地
大正印刷社
電話七四一番

142
880

終